



大和市民活動センター 10年のあゆみ

あの手この手で考えて  あの手この手で楽しもう

拠点やまと

目次

センターの概要	1
あの手この手折り込み「10年のあゆみ」	3
10周年記念交流会	27
10周年記念パネル巡回展	29
記念交流会資料	
設置されるまでの経過について ppt	33
大和市民活動センター10年のあゆみ ppt	36
エレベータートーク実習	39

センターの概要

◆大和市民活動センターは『大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例』に謳われた「新しい公共」を創造し、大和市における社会資源の充実を図るための「協働の拠点」として2004年11月に設置され、10年を迎えました。

あらゆる分野の市民活動を推進し、市民活動団体が出会い・つながり、共に育つ“共育”^{ともいく}する場を提供しています。

新しい公共とは、行政だけで公共を担うのではなく、市民・市民団体・事業者・行政など、地域に関わるすべての人の知恵や力を出し合いながら、地域の公共的課題を発見し、解決して行こうという考え方です。



◆大和市民活動センターは大和市と市民活動団体〔拠点やまと〕による、協働事業として運営しています。市民活動団体が、出会い・つながるために〔拠点やまと〕は市民の息づかいをとらえるアンテナの役割を果たします。市民と行政の専門性を出し合って課題解決に臨めば、未来を生み出す社会資源“市民の力”を十分に引出すことが可能になります。

「協働の拠点」となる大和市民活動センターが、まさに協働によって運営されていることに大きな意味があります。

◆11月22日(土)に10周年記念交流会「課題は未来につながる ～これからの10年を考える～」を開催し、市民活動団体の課題をまとめました。人材不足、世代交代、PR不足、資金調達に悩み、地域・企業との連携を望んでいることがわかり、今後の事業を展開していく上での指針となりました。

◆運営の変遷

☆2004年11月～2008年3月

協働事業 運営主体：協働の拠点運営委員会

大和市協働推進会議委員、協働の拠点準備会委員、公募市民によって構成。広報部会、相談部会、交流部会、研修部会を設け運営に取り組みました。

☆2008年4月～2009年3月

補助金事業 交付団体：拠点やまと

☆2009年4月～現在

協働事業 運営主体：拠点やまと

協働の拠点運営委員有志と事務局スタッフ有志で2008年に設立した〔拠点やまと〕は市民活動を推進し、市民活動団体を支援する市民活動団体です。

◆事業 10 年の実績

①市民活動に関する交流と共育の推進

- ・ティーパーティ（2005・2006 年度）18 回開催
- ・おしゃべりラウンジ・パルス（2007 年度）8 回開催
- ・キャンドルナイトラウンジ（2007 年度）5 回開催
- ・登録団体交流会 5 回開催
- ・市民活動団体交流会“カッコフェスタ” 9 回開催
- ・やまと国際交流フェスティバル（2009～2014 年）5 回参加



②市民活動に関する情報の収集及び提供

- ・広報紙「あの手この手」92 号発行
- ・ニュースレター 122 回配信
- ・H.P. の維持管理
- ・マスメディアの活用
FM やまと「やまとっこ☆みつけた」
2007 年 12 月から 234 回放送

③社会資源の創出及び発信

- ・ボランティア活動コーディネート随時
- ・夏の子ども交流週間 2009 年実施
- ・子ども交流クリスマス会
(2009 年～2014 年) 6 回実施
- ・夏休み中・高校生ボランティア体験
「このゆびとまれっ！」

2010 年夏から 5 回実施

④市民活動及び協働事業に関する相談や研修

- ・相談（随時）
- ・共育セミナー 65 回実施
- ・大和市民活動センター・フォーラム 2006 年 11 月 4 日（土）実施
～見つけよう 地域課題 創ろう 新しいコミュニティ～
基調講演：NPO フュージョン長池理事長 富永一夫氏



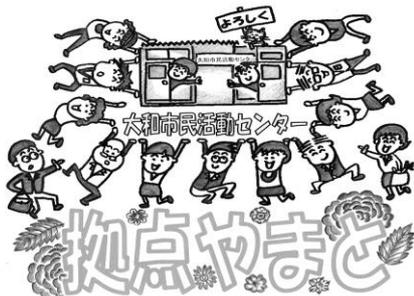
⑤市民活動促進のための施設及び設備の提供

来館者数	登録団体数	会議室利用件数	多目的ルーム利用件数	印刷機利用件数
103,063 人	263 団体	4,633 件	894 件	4,559 件

◆ [拠点やまと] は、「新しい公共」に参加する意思をもって参画し、センター管理運営事業に関わっています。勤務外での [拠点やまと] メンバーの事業活動は、すべてボランティアで行われています。これらボランティアにより、無償で提供された労力や時間などをインカインドとして集計し、活動の広がりを表す方法として、目に見える形でまとめています。

《2008 年 4 月からの実績》 総時間数 11,785.5 時間 約 10,450,000 円

(神奈川県最低賃金時給 887 円で算出)



◆2014 年度 [拠点やまと] メンバー

- | | |
|------------|-------------|
| 関根 孝子 (会長) | 石川美恵子 (副会長) |
| 望月 則男 (会計) | 櫻井 貞代 |
| 櫻井美紀子 | 中山みゆき |
| 廣瀬 康代 | 小林 仁 (監事) |



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

<協働事業>

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第1号 2014年4月1日発行

「新しい公共」って、「協働する」って、なんだろう。 その間いかけを続けてきた10年だったのかもしれない。

「協働」はジグザグで進化して行く

「新しい公共」そして「協働」という言葉は「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」のシンボルワードだと言っていいだろう。

大和市のこの「条例」が施行されたのが平成14年(2002年)。今年は平成26年(2014年)、ともかく12年間という年月を経た。

この「条例」の私にはどこかポエティックなリズムをもつ「前文」を読み直すたびに、そう世間っていやつは甘くないよと思いつつ、ちゃんと社会の発展、人の動きを見据えていると思直す。

・「前文」の一部を引用します。

<行政に担われていた「公共」に、市民や市民団体、そして事業者も参加する時代が来ています。「私」を大切にするために様々な選択肢があることが普通のことになってきました。このように、多様な価値観に基づいて創出され、共に担う「公共」を、私たちは「新しい公共」と呼びます。>

考えてみると、昔から「公共」という姿は確かにあったように思う。「結(ゆい)」とか「座」とか。そのルールが世間とか社会を支えてきた。いさかみや対立があると、両者の長老が一晩中でも熟議し、決まったことを下ろすということもあった。そうして地域の「公共」は保たれてきた。

この世間(=社会)は「市民や市民団体、そして事業者も参加」してこそ「公共がささえられていくのだと

元協働の拠点運営委員会

会長 小杉皓男



「タウンニュース大和版」2004年11月12日号より

いう思いは、例えば東日本大震災の復興の街づくりの進行過程で、私たちはたくさん見てきている。

情報や財源が「官」(=行政)に集中する過程で「公共」までいっしょに「官」に集中してきてしまったこれまでの歴史過程。けれども本来「公共」の担い手の主人公は「民」にあることをさまざまなシーンで確かめられることが多くなった。

「官」と「民」。それぞれの得意技を提出する「協働」という関係。大和市民活動センターはその「協働の拠点」であると「条例」の第9条に位置付けられている。この「10周年」の折り込みはその「協働」に「センター」が果たしてきた役割の検証を次号から記していくということになるのだと思います。



「ひらこう みんなの力 集まる みんなの手」
 ～これでわかる「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」～



これは、大和市協働推進会議・協働を伝えようプロジェクトが2006年4月に発行した冊子のタイトルです。●「新しい公共」とは ●「市民活動」とは ●「社会資源」とは ●「協働」とは ●「協働の拠点」とは、の5つの項目からなり、あの手この手で問題解決する、大和市流の「新しい公共」という挑戦です。と書かれています。

「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置された市民活動センターは、行政との協働事業で運営しています。協働の拠点運営委員会が発足したのが10年前。

準備段階から関わってきた人、公募による委員、市職員からなる委員会でした。

事務局長として関わった間瀬富隆さんに、当時を振り返って感想を寄せていただきました。

大和市民活動センターの黎明期
 協働の拠点運営委員会 事務局長 間瀬富隆



2004年4月、市民活動センターの開設を目指して、市民の自由参加による「協働の拠点準備会」が立ち上がり、私もその仲間に加わった。

青少年相談所として使われ、その後、倉庫になっていた現在の建物は、建物全体のクリーニング、ペンキの塗り替え、床の張り替えなど、全て市民のボランティア活動で現在の姿へと変身した。

準備会活動の中で、委員は他市のセンター見学や関連の講習会に参加して、積極的に知識吸収に努めた。

協働の拠点運営委員会は、準備会メンバーの中から、小杉さんが会長に、私が事務局長に、事務局スタッフは公募者の中からそれぞれ選任された。運営委員は準備会メンバー及び一般公募によって選任された。

10月31日、市長他関係者を招いてオープニングセレモニーが行われ、11月1日より正式に運営委員会と大和市との協働事業がスタートした。

運営委員・スタッフ共に市民活動支援業務に関しては初体験であり、手さぐり状態の毎日だった。

スタッフの勤務は午前・午後それぞれ一人に対応する方式でスタートしたが、これには問題が発生。後に2人体制に変更した。少人数で来館者の対応、管理業

務など全てをこなす必要があり、スタッフ全員の資質向上が急務と考え、内部での勉強会開催や、近隣センターでの短期間の

現在は柳橋1丁目自治会の副会長として活躍中。

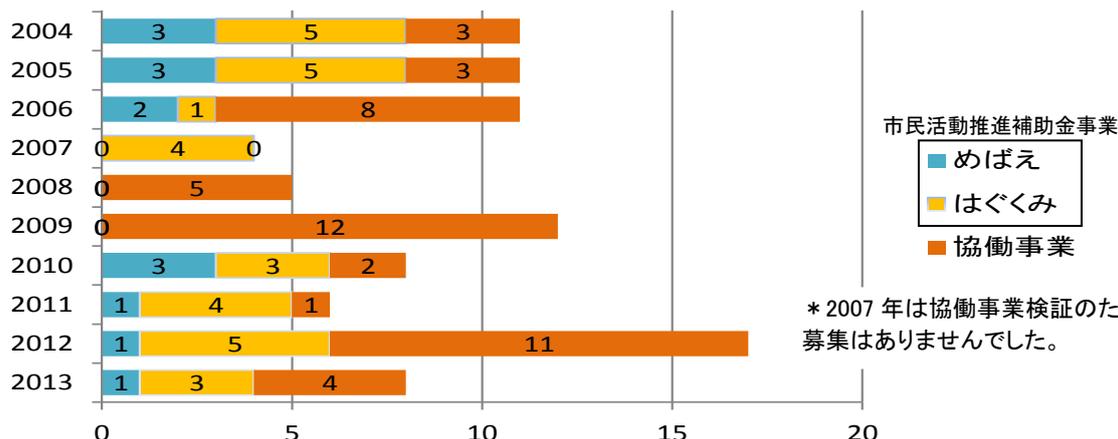
協働事業のパートナーである市民活動課とは緊密な連携のもと、業務上のアドバイスや、必要に応じて人的サポートを受けることもあった。

広報活動としては、広報紙「あの手この手」を発行。「FM やまと」出演、新聞社・ミニコミ紙などのマスコミの活用は現在も続いている。

2006年に市民活動団体の活動を多くの市民にPRするための「カッコーフェスタ」をスタートさせ、センターの大きなイベントとして定着している。

2008年3月まで約3年半に亘って続いた協働事業としてのセンターは、大和市の協働事業検証のため一旦休止し、補助金事業として再出発することになった。公募による審査を受けて、運営委員の有志とスタッフの有志で立ち上げた「拠点やまと」が補助金交付団体として1年間運営にあたった。2009年度、協働事業が再開し、現在に至っている。

大和市「市民活動推進補助金事業」と「協働事業」提案件数



* 2007年は協働事業検証のため、提案募集はありませんでした。



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

<団体交流>

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第2号 2014年5月1日発行

団体同士が手を取り合って

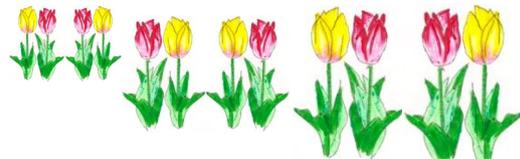
大和映像サロン 会長 長谷川 修

大和市民活動センター登録団体より

～ アマチュア映像愛好家グループ 大和映像サロン ～

大和市民活動センター開設10周年おめでとうございます。

私共のクラブは1968年(昭和43年)創立、映像制作を趣味とする者の集まりです。8ミリフィルム映像から始まり、ビデオテープを経て現在はハイビジョン映像を楽しんでおります。会員は23名(内地方会員3名)、女性会員は4名です。毎月第2土曜日に勉強会、第4土曜日に月例会を市民活動センター(以下センター)で行っております。



このほか会員相互の親睦を図る撮影旅行や、友好クラブの上映会参加、コンテストへの応募などを行っております。お陰様で当クラブから毎年のようにコンテスト入賞者が出ております。

昨今はビデオカメラもハイビジョンカメラが主流となり価格もどんどん安くなっており手軽に楽しめるようになりました。幼稚園や小学校の運動会をのぞいて見ますとたくさんのご父兄がビデオカメラを構え可愛いお子さんの姿を撮っておられます。しかしその映像を編集したり、タイトルをつけたりして保存される方はほとんど居りません。私たちも最初の動機はホームムービーから始められた方がほとんどです。

編集機器も改良され、お年寄りでも容易に扱えるようになっております。どうぞビデオカメラをお持ちの方は一度当クラブへお越しください。映像作りの魅力をご一緒に味わいませんか。

(事務局長 土屋翁三)



センターは2007年11月の例会から使わせて頂いております。これまでは生涯学習センターで例会を行ってきました。私どもの会員は高齢の方が多く、駅から近いセンターは大変便利です。主な行事として毎年秋に「映像まつり」と称して会員制作のビデオ映像を一般公開でご覧頂く映写会を生涯学習センターホールで開催しております。昨年は20本の作品を上映、台風襲来と言う悪天候ながら300名を越す方々に鑑賞して頂きました。

センターを使わせて頂くようになり、他の団体との交流も盛んになり、撮影とDVD制作や上映会のお手伝いなどをさせて頂いております。例えば演劇やまと塾さんの公演、大和商工会議所20周年記念行事、湘南軽音楽フェスティバル、ファッションショーの撮影、「じんじん」上映会の支援、オカリナ演奏会の撮影と上映、地域コーラス発表会の記録等々私たちでお役に立てるのであればお手伝いさせて頂いております。(これは会が窓口になっておりますが、会員有志の個人的活動で、会としての活動ではありません。)



お問い合わせは下記事務局までお気軽にどうぞ。

大和映像サロン事務局

大和市深見東1-1-12 土屋翁三方

☎ 090-8775-6623 ☎ 046-263-6623

メール: tsuchiyaozo@sannet.ne.jp

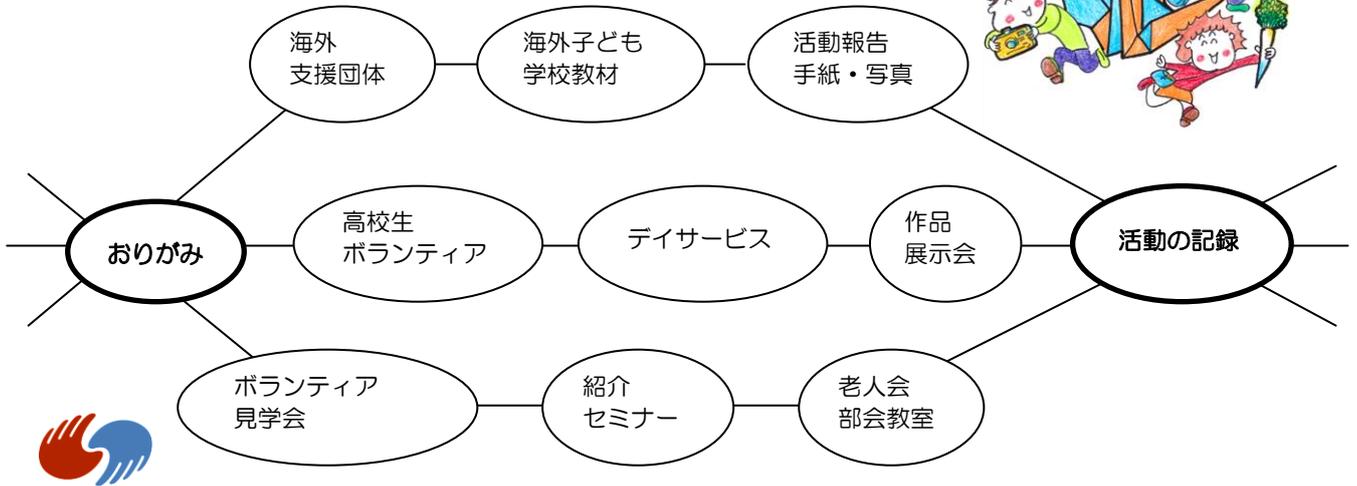
<mailto:tsuchiyaozo@sannet.ne.jp>



FM やまと～やまとっこ☆みつけた～
第175回 2013年1月29日(火)9:00～
当日の1時間生放送に参加されています。
また楽しいお話をお聞かせ下さい。

活動と活動が手をつないだら…
 それぞれのネットワークが有機的にひろがったら…
 ～ きっと何かが生まれる 私たちの拠点 大和市民活動センター ～

市民活動センターは「人と人との出会いの場」です。毎月のように、活動団体同士が手を組んで活動の輪が広がっています。



「おりがみサークル」の作品は海外でも人気です。「チームピースチャレンジャー」や「いきいきフォーラム草の根支援」が発展途上国に持って行って紹介しました。現地からは写真や手紙のお礼が届きました。

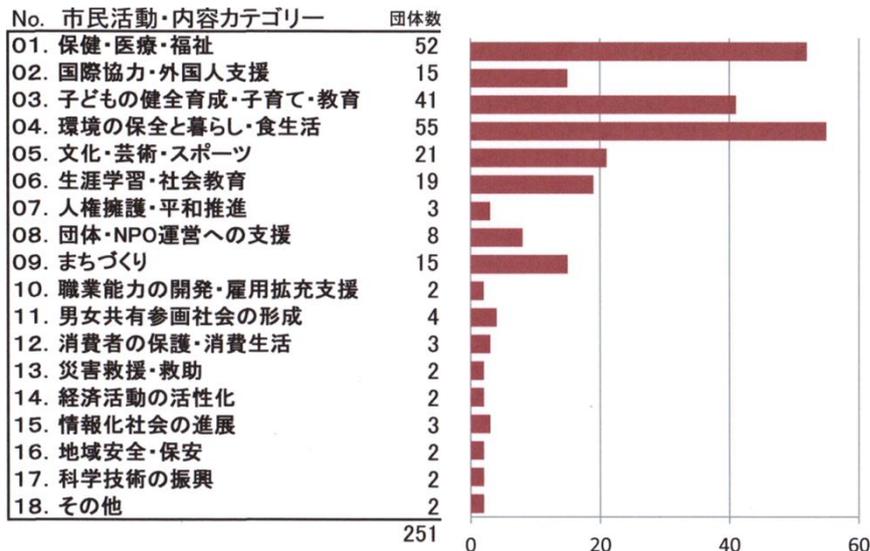
デイサービスでボランティア活動をする高校生たちが、センターに寄って「おりがみ」を習い、活動現場で活かしています。

市民活動課主催の「ボランティアバス見学会」に参加した女性が、「おりがみ」を習って帰りました。後日、地元婦人部で手芸セミナーがあり、「私ね、先日教わったおりがみ、みんなに教えてあげたわよ！ありがとうね！」と、にっこり報告してくれました。

大和市民活動センター登録団体 活動内容

各地の市民活動センターでも 福祉・環境・食生活・子どもの健全育成や生涯学習関連分野の登録団体数は多いようです。大和市の特長は国際協力・外国人支援やまちづくり、自治会登録も多く見られま

す。反面、スポーツや文化芸術など施設・設備を利用されるグループ団体数は他センターと比べると割合的に少ない傾向です。





大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「**10年の歩み**」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

＜ボランティア＞

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第3号 2014年6月1日発行

高校生ボランティアの土壌

柏木学園高等学校 生徒支援担当
濱谷美代子

自立にはまだ少し時間のかかる高校生たちが、他者の役に立ちたいと願って始めるボランティア。しかし、彼らは行動することで癒され、かつ成長してゆく。そのことがまた頼もしい。

一つの例に高齢者施設訪問がある。様々な方との触れあいで、当初の「ボランティアしてあげる」が「ボランティアさせていただいた」という謙虚な心で、素直な喜びに変わる経験となる。

さて、高校生のボランティアをコーディネートする組織に大和市民活動センターがある。高校生をありのまま受け容れるスタッフの一人ひとりが、拘わる者を巻き込んで熱くさせてしまう情熱家だ。高校生ボランティアを支える栄養価の高い土壌がここにある。

今年も、かけがえのない心の財産をいただいた多くの生徒たちが、活動センターを巣立って行った。高校生ボランティアと、彼らを育てる活動センターの存在意義はたいへん大きい。



書道吟をお年寄りに披露するのは2人です。(写真:右)交通量の少ない所を見つけて、重たい書道版をリヤカーで運んだり、設置したりと自ら進んで裏方に回る高校生もいます。そんな仲間が集まって、代表1人が詩吟を吟じ、それを次の1人が墨で書く…感動して涙を流すお年寄りもいました。

アンコールの音が響き、参加の高校生全員に、温かい感謝と労いの言葉をかけてくださいました。

高校生ボランティアを受け入れて

晃風園デイサービス草柳
今井乃里子

晃風園デイサービス草柳では、大和市民活動センター様よりお申し出があり、柏木学園高等学校高校生をデイサービスのボランティアとして受け入れをしております。活動内容としては、要介護の高齢のご利用者様のお話相手やゲームのお相手などの他、短歌書道部の詩吟・書道詩吟などの発表や人形劇なども企画してくださいました。

当デイサービスでは、地域から数多くのボランティアの皆様にお越しいただき、ご利用者様には大変喜ばれております。しかし、高校生をボランティアとして受け入れることは初めてで、若干の不安とともに受け入れを開始いたしました。また、来て下さる高校生の皆様にしても、不安と緊張で始まったボランティア活動だったと思います。

しかし、この不安も全くの杞憂でした。ご利用者様は高校生たちをすぐに受け入れてくださり、若い人たちとの交流を楽しみにされるようになりました。高校生の皆様にしても、お年寄りとの交流から、色々と学ぶことがあったのではないかと考えております。

高校を卒業する際に、「福祉の大学へ進学する。」「福祉の仕事に就く」というような話を生徒さんからお聞きするにつけ、若い方たちの進路の選択にも一役買うことができたかと大変嬉しく感じただいです。今後も世代を越えた交流の場として、高校生ボランティアの受け入れを続けていきたいと考えております。



ボランティア活動の推進

～ ボランティアの手と手をひろげて ～

大和市民活動センターの活動

- ☆ 交流・共育の促進
- ☆ 情報の収集・提供
- ☆ 社会資源の創出及び発信
- ☆ 相談・研修事業

○ボランティア機会の提供

(中高生のボランティア活動のきっかけづくりを行なっています)

○ボランティア活動コーディネート

(ネットワークを活用してボランティア参加者と活動団体とのマッチングに努めています)

ボランティア活動が、活発になったきっかけ

2008年夏、柏木学園高等学校の中村茜さんが、一人で市民活動センターに「ボランティアをやりたいのですが」と訪れたのが始まりでした。控えめに話す中村さんが学校で友達に声をかけ、1人2人とボランティア仲間が少しずつ増えていきました。

「NPO 法人 サポートハウス ワン・ピース」での活動が始まり、「センター」の共育マネージメントセミナー「高校生集まれ！はじめの一歩に来て・みて・ご覧」には、濱谷先生と高校生2人が参加しました。

それからは、活動も活発になり、活動場所も人数も活動内容も増えていきました。

現在も毎週水曜日は「NPO 法人サポートハウス ワン・ピース」で、土曜日は「晃風園デイサービス」で活動を行い、喜ばれています。「センター」の数々のイベントにも参加しています。



活動内容

- 楽器演奏
クラリネット・フルート
- 合唱
- 詩吟・書道吟
- 一匹チュー
ミニ人形劇、軍手人形
- 紙芝居
- 障害児と遊ぶ
玩具やゲームで遊ぶ、公園で紙ヒコーキの飛ばしっこ、シャボン玉、鬼ごっこ、折り紙、お絵かき
- 子どもと遊ぶ
公園や地域のコミセンでドッチボール、サッカー、野球、かくれんぼ、鬼ごっこ
- お年寄りの話相手
折り紙、和菓子作り、ジェスチャー、ゲーム、オセロ
- 障害児とのクリスマス交流会
会場準備、飾り付け、プレゼント制作、ケーキ作り、工作、後片付け

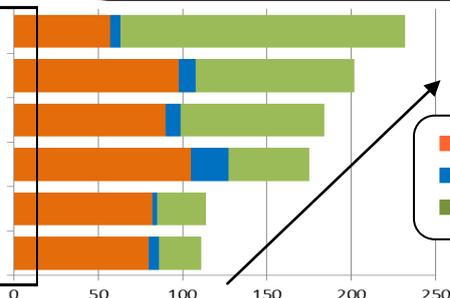


活動場所

- ☆まごころ地域福祉センター
 - デイサービス
- ☆NPO 法人 サポートハウス ワン・ピース
 - ツーピース
 - スリーピース
- ☆NPO 法人 地域家族 しんちゃんハウス
- ☆晃風園・特別養護老人ホーム
 - 晃風園デイサービス草柳
 - グループホーム晃風園
- ☆大和市芸術文化振興会
- ☆特別養護老人ホーム みなみ風

高校生のボランティア活動

年度	延べ人数	定期的活動	クリスマス	このゆびとまれっ！
2013	232	57	6	169
2012	202	98	10	94
2011	184	90	9	85
2010	175	105	22	48
2009	114	82	3	29
2008	111	80	6	25



年々、高校生のボランティア活動は盛んになっています。



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「**10年の歩み**」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

< 広報紙 >

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第4号 2014年7月1日発行

大和市民活動センターの広報紙は「あの手この手」です。創刊の頃から数えると、そろそろ10年が経ちます。大和市民活動センターの開設が2004年11月、創刊号が翌年3月ですので、短期間でチームを組んだこととなります。久しぶりに記録ファイルを開いてみました。当時の文面からは“怖いもの知らず”、でも“やる気満々の仲間”だったことが読み取れます。

- ・協働の拠点運営委員会に『広報部会』が生まれ
- ・『あの手この手』のタイトル・ロゴなどを作り
- ・この「広報紙」も、当時はおおげさに『広報誌』
- ・『編集後記』も『熱血編集後記』と張り切っていました。
- ・そして<大和市民活動センター・リーフレット>内容などが既にこの創刊号に組み込まれています。

当時の楽しいエピソードは、今でも話題となります。またメンバー(小宮山・関根・瀬路・中島・望月・山口)のコメントには、恥ずかしげも無くハッキリと『編集おしゃべり会』と記してあります。まさに“切った貼った”のお勉強会でした。

ある団体から「パソコン使えないの?ここって10年遅れているわよ!」、女房が友だちから「ね~、お宅のご主人によく似た人が“お絵かき”してたわよ。」と言われたのもこの頃です。当時は原紙も印刷も白黒でした。掲示する時は、色塗り担当?の若手スタッフが現れてクレヨン・色鉛筆を使い、楽しんでいました。創刊号、印刷日も間近となりました。でも表紙が未だ構成されていません。さあ大変!



昔は切った貼ったの編集会議。
いえ、編集もどき「おしゃべり会」でした。

そこで登場、頼みの運営委員・中島さんの「ここに大きなイラストを入れましょうよ!」その一言で、特長ある今の構成パターンが誕生して何となくまとまった様な気になっておりました。

創刊号配布も終り、運営会議で自慢げに報告した時のことです。当時会長の小杉さんが「見開き逆じゃない?」また専門的で丁寧な指摘に感心してメモを取りました。今でもセンターファイルに綴じてあります。また会議で飛び交う専門用語が分からず、文字の大きさの意味『『宝石の名前』や『ポイント』って何ですか?』と聞いたのも覚えています。

※19世紀後半のイギリスでは活字の大きさを宝石の名前をつけて呼んでいた。

「あの手この手」は大きな役割を担っています。大和市の協働事業や市民活動推進補助金事業のお知らせ、PR、そして詳細案内をしていきます。大和市市民活動課と一緒に大和市民活動センターも窓口となって、実施までの手続き相談や公益的活動を目指した団体事業などを広報メディアに上げ、広くアピールしていきます。



なんとなく現在の「あの手この手」のイメージができていた10年前の創刊号です。

色々なことも経験しました。漢字の多い堅い内容に対して「読んでくれない」「読みたくない」「見る気もない」、また「お仲間壁新聞」とのコメントもありました。ある研修で1つのヒントがありました。「キャッチコピーを効かせ、一瞬で要約を!興味をそそって文面に導入。」でも実際どのように…

やはり、創刊当時の初心に戻って、「あの手この手」を使い、腕を伸ばしながらひとつひとつ、みんなの「あの手この手」で問題解決ですね。

広報紙「あの手この手」の役割

大和市内の市民活動、市民活動センターの事業を、わかりやすく伝えています。

～紙面を通してつながる 大和市の市民活動～

「市民活動」という言葉を知らない人も多かった 2005 年春、「市民活動センターとは何をするとところか?」という紹介記事を書いて、広報紙「あの手この手」がスタートしました。「活用されることでセンターは育つ」との考えのもと、来館と登録を紙面で大きく呼びかけました。

「あの手この手」は「センター」の事業をはじめとして、市内の市民活動情報の提供に力を入れています。創刊号から登録団体の紹介を開始し、第 12 号からは登録団体が出演する FM やまとの番組～やまとっ☆みつけた～の放送内容を掲載しています。【2014 年 6 月末の放送回数は 213 回】

「協働の拠点」として、「新しい公共」を創造する大和市協働事業、市民活動推進補助金事業については、事業決定までの重要な過程である“公開プレゼンテーション”を中心にレポートを掲載しています。

表紙ではこれまでに「やまと国際アートフェスタ」「やまと子ども絵画大賞」「わが街やまと～ドラマティックな絵画展」、市内在住の漫画家さんによる「市内の 8 駅」などの作品を紹介、現在は協働事業「YAMATO イラストレーションデザインコンペ」の入賞作品を掲載しています。

以上のように市民活動以外でも大和市という地域性を大事にすることを基本として「あの手この手」を編集しています。

広く市民のみなさまへの広報と同時に、登録団体と市民活動団体と市民が、実際に顔を合わせることがなくても「あの手この手」の紙面を通してつながり、ひろがりの“わ”が作られていく、そのような広報紙をイメージしてこれからも紙面づくりをしていきます。



表紙絵で実現したい理念を表現。
(上)第 6 号表紙 (下)第 7 号表紙



あなたの活動が遠くの人にも届きます

送付先：
登録団体+北から南まで

元協働推進会議代表の渡辺精子さんが「旅行先の釧路市で市民活動センターを見つけて入ってみたら、なんと『あの手この手』が展示されていました！こんな遠いところで会えるとは…嬉しくて」と話しにきてくださいました。

創刊号から「あの手この手」のイラスト・挿入画など、スタッフ望月を中心に描いています。漫画から似顔絵までなんでもござれ。すべて描き下ろしです。創刊前、著作権に関する指摘を受け「じゃー、自分たちメンバーで描いちゃおう」「登録団体の皆さんにもお願いしよう」「描きながら頭の体操だ！」が「あの手この手」の発想です。イラストからアットホームな雰囲気をお伝えできればと思います。



第 39 号から
登場のロゴです。

「あの手この手」の変遷

創刊号～第 9 号 季刊
2005 年 3 月 31 日創刊。2007 年 7 月発行の第 9 号までは季刊。当初は右綴じ、第 4 号から左綴じに

第 10 号～第 38 号 月刊
2007 年 10 月から月刊発行

第 39 号～第 44 号 隔月刊
2010 年度は隔月刊発行。特集号 2 回

第 45 号～第 85 号 月刊
2011 年 4 月 1 日から月刊発行

ふりかえり号 年刊
2008 年度から年度末に「ふりかえり号」発行



登録団体、市内各施設、県内の市民活動支援施設を中心に、北海道から福岡県まで「あの手この手」は届いています。

「やまとっこ☆みつけた」の

出演団体をパネル展示します

「やまとっこ☆みつけた」に出演していただく団体のPRにイラストが添えられ、『出演します』と、外の歩道脇の掲示板に掲示しています。

出演PRの度に描き添えられた200枚のイラストをパネルに仕立てたものが「タウンニュース」で紹介されました。その後の出演団体もイラストが描かれ、10周年記念パネル巡回展で、このイラストパネルも展示する予定です。

また、出演された皆さんのスタジオでの写真は、A4に拡大して『出演しました』と外の掲示板に掲示しています。道行く人が足を止めて眺めている様子しばしば見られます。

生放送のイラスト入り録音CDを、出演団体にお配りしています。ラジオを聴けなかった人たちに聴いていただくと、好評です。仲間みんなに聴いてもらいたい、故郷の友人に配りたい、などと10枚追加(有料)録音を頼まれたこともありました。

全団体のイラストもご期待下さい。



「大和市民活動センター」登録団体の参加プログラム

FMやまと(77.7MHz) ~やまとっこ☆みつけた~

裏方さんの ~企画・調整・打合せ・生放送・録音~ にも支えられています。

現在 奇数週 火曜日 9:00~10:00 生放送継続中

初回生放送は2007年12月4日

担当回数	年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
216	ジョニーさん (FMパーソナリティー)	4	51	※ 37	27	27	27	27	16 (12)
153	担当 櫻井	4	51	37	27	27	7*		
63	担当 石川						# 20	27	16 (12)

※ 2009年5月5日(第73回)までは毎週火曜日30分の生放送。その後は奇数週の火曜日1時間の生放送として継続しています。

* 2012年4月3日(第153回)まで櫻井が担当 # 154回から現在の担当は石川です。

FMやまと ~やまとっこ☆みつけた~ 参加団体

回数	1	2	3	4	5	6	7
7	引地川水とみどりの会						
7	「カッコーフェスタ」参加団体						
7	柏木学園高等学校						
6	引地川かわくんだり実行委員会						
6	大和市芸術文化振興会						
6	「このゆびとまれっ!」参加団体						
6	大和市民活動センター						
5	一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク						
4	食のアトリエ						
4	NPO法人地域家族しんちゃんハウス						
3	NPO法人 かながわ県央マンション管理組合ネットワーク						
3	NPO法人大和さくら会						
3	マイセラ・ジャパン						
3	さがみ生活クラブ 生活協同組合 大和コモンズ						
3	やまと国際フレンドクラブ						
3	大和市民活動課						
3	ドラマティックカンパニーYAMATO50						
3	NPO法人 ピコピコ						
3	大和おやこ劇場						
2	NPO法人 WE21 ジャパン大和						
2	NPO法人 サポートハウス ワン・ピース						
2	あざみ旬会						
2	カットスタジオみどり						
2	神奈川健康生きがいづくりアドバイザー協議会						
2	南京玉すだれ保存会 梅乃屋流						
2	関東学院大学ボランティアサポーター						
2	憲法九条やまとの会						
2	サウンドテーブルテニスクラブ						
2	シネマサークル						
2	チームしらかし筆の会						
2	NPO法人 チームピースチャレンジャー						
2	NPO法人 なんでもプラス地域ネット						
2	日本オオカミ協会						
2	大和市身体障害者福祉協会視覚部						
2	大和市卓球協会						
2	大和市録音奉仕会						
2	NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ想						
2	NPO法人 神奈川アニマルセラピー協会						
2	NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア						
2	大和市革新懇						

参加団体名はまだ89あります。



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

<活動団体交流まつり (カッコーフェスタ)>

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第6号 2014年9月1日発行

大和市民活動センターは、あらゆる分野の市民活動を推進・応援・共育する施設として、日常業務の他に、それぞれの目的を持った「登録団体交流会」「このゆびとまれっ!」「共育(ともい)くセミナー」、そして今回特集の「活動団体交流まつり」(カッコーフェスタ)などを行なっています。

「活動団体交流まつり」(カッコーフェスタ)は多くの皆さんに市民活動を知ってもらい、登録団体の活動をアピールする場として、また参加団体がこの機会を介して交流し合い、つながりや活動の輪を広げるなどの目的をもって行われています。

毎年、11月に行われる「大和市産業フェア」と同時開催して、広く市民活動PRを行なっています。今年は第9回「カッコーフェスタ'14」として、11月8日(土)と9日(日)を予定しています。

特に今回は参加型セミナー“ワークショップ”の充実を目指しています。1日5時間(1時間/団体)、それぞれの時間割を有効に企画していきます。昨年は「打ち合わせ会」途中の発足で、十分な準備期間が有りませんでした。今年は企画内容をまとめ、広くPRを行う予定です。



第2回目からは「カッコちゃん」のマスコットマークが大活躍。



大和市民活動センターの館内、駐車場は多くの人でにぎわいます。「市民活動」のいくつかを自分の目を通して感じてください。



第4回ではバザーや出店販売の袋に「カッコちゃん」マークが登場。



スタンプマークの「カッコちゃん」スタンプラリーのゴム判にも変身。

～活かそう 広がいのわ～

「カッコーフェスタ」などでの“出会い”のいくつか♪

- ・パン工房「麦の香り」のパン、「いきいきフォーラム」OKバジさん講演のお茶菓子に。毎年「カッコちゃん」デザインのパンも大好評です。
- ・「デイサービス・ハッピー鶴間」が「いきいきフォーラム」の紅茶を利用者へ提供しました。
- ・「おりがみサークル」作品が「チームピース チャレンジャー」経由で、バングラディッシュ交流会で展示されました。
- ・「タオル帽子」が「なんでもプラス地域ネット」の協力で講習会を開催しました。
- ・商工会議所「トラック協会」が「チームピースチャレンジャー」のコーヒー販売に一役。
- ・「柏木学園詩吟書道部」作品が「カットスタジオみどり」に展示されて、二条通りでも話題になりました。
- ・「命の水を詩画に」肢体不自由の金子寿さん、この作品発表から、色々な展示会などへ更につながりました。
- ・「南京玉すだれ」お弟子さんとの共演を見て、一緒に練習希望の女性が手を挙げました。
- ・「FMやまと」ジョニーさんが立ち寄り、参加団体の紹介や～やまとっこ☆みつけた～PRなど生中継を行いました。
- ・「おりがみサークル」が「しらかし華の会」を“紫陽花”で飾り、作り方・体験コーナーにつながる好評ぶりでした。
- ・「バルーンアート」「おりがみサークル」が「ピコピコ」のイベントに一緒に参加となりました。
- ・「いきいきフォーラム」経由で「おりがみサークル」の作品がネパールに送られました。
- ・「しらかし華の会」被災地訪問に「バルーンアート」が活動協力してくれました。

あらたな“出会い”、今年も期待しています!



これも第4回から「吊り看板」の飾りアイデアで、会場はお祭り気分!スタンプラリーのゴム判にも変身。

<活動団体交流まつり (カッコフェスタ)>

市民活動団体の活動を たくさんの皆さんに知ってもらおう
 “市民活動のおまつり” ～ 活かそう 広がりのわ ～ です。

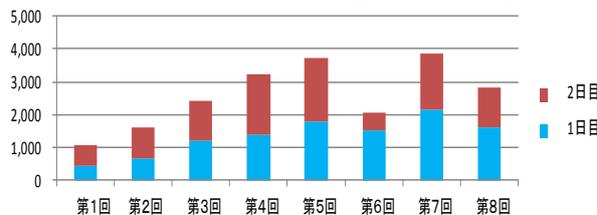
大和市民活動センターの大きな行事の1つとして
 <カッコフェスタ>は毎年続いています。

「市民活動団体交流まつり」の“活”と“交”から「カッコ」の呼び名が付けられ、そして“鳥のカッコウ”がマスコットマークに描かれました。平成 18 年(2006 年)に立ちあげて、今年で 9 回目ということになります。

市民活動センターの棚には写真集などを含めて、11 冊の記録ファイルが並んでいます。いくつかの項目を並べてみました。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
1日目	423	653	1,210	1,400	1,794	1,499	2,160	1,627
2日目	657	957	1,225	1,820	1,931	578	1,720	1,198
合計	1,080	1,610	2,435	3,220	3,725	2,077	3,880	2,825

*第6回目の2日目は、雨の為 中断となりました。
 *昨年第8回から「クイズラリー」・景品付き「スタンプラリー」は止め、「ワークショップ」全員参加型セミナーに切り換え切り換えました。今年も団体企画に期待してください。



< 団体出店数 >

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
1日目	13	18	23	16	16	15	19	16
2日目	18	19	20	16	17	18	19	17
延べ店数	31	37	43	32	33	33	38	33

< “カッコちゃん” アラカルト? >

当初、“カッコちゃん”のマスコットアイデアが出ました。でも本来の「カッコウ」はクチバシの鋭い、厳しい目つき…一応カッコウは描いてみたものの、残念ながら飛び立てませんでした。

また第2回カッコフェスタ「打ち合わせ会」では、「市民活動の内容はバラエティーに富んでいるのに、何故カッコちゃんは1つなんだ?」の意見が出ました。何と11匹のお仲間が求められ、イラスト係は大あわて! カラー・白黒合わせて22枚が次の会で検討されました。でも結局、「マスコット・マークは1つが常識でしょう…」ということになりました。



< こんな企画が実行されました >

- ◆「FMやまと」コーナー
- ◆「盛り上げ隊」結成



- ◆マスコットマーク「カッコちゃん」作成
- ◆「クイズラリー」



- ◆「書道吟」

「一匹チュー劇場」

- ◆統一“おまつり”看板作成
- ◆景品付き「スタンプラリー」
- ◆バザー・展示即売会
- ◆吊り看板(ラミネートをロープ掛け)
- ◆「やまといきいき健康体操」
- ◆全自治会ちらし配布(7000枚)

- ◆「市民活動・協働」案内コーナー
- ◆バルーンアート講習会

- ◆「ワークショップ」開催

第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回

そして今回
 第9回

< ワークショップ団体 申込受付中 >

(1時間/団体 : 会議室を開放します。独自の企画で団体の活動紹介やPRができます。)

昨年度から始まったワークショップは活動PR・お話、そしてパフォーマンスなど、各自団体で企画する時間です。会議室開放の1時間(入れ替りを考慮して正味50分)を皆さんのアイデアで、楽しくためになる場所にして下さい。

☆参加希望団体は大和市民活動センターまでお申し込みください。

(申込用紙を持参、または FAX で)



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「**10年の歩み**」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

＜このゆびとまれっ！（夏休み中高生ボランティア体験）＞

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第7号 2014年10月1日発行

「このゆびとまれっ！」とは・・・

中高生が持つ時間・知恵・技術を出し合い、社会に開けば、それは皆のもの「社会資源」になります。市民の課題解決に中高生が関わる社会参加の第一歩として実施しています。また学校の先生や家族以外の「おとな」と親交を持ち、社会との関わり合いの多様性を認識することをねらいとしています。登録団体は中高生のボランティアを受け入れるにあたって、貴重な時間を割いてボランティア参加の機会を提供しています。



「夏の思い出」文集も楽しみ！

「市民活動で心豊かな地域づくりを」

大和市民活動センター開設10周年おめでとうございます。当、大和芸術文化振興会は、多くの方々に芸術鑑賞の機会を提供するとともに、自主的な活動支援など、芸術文化活動を推進し、心豊かな地域を目指すための一環として、2011年から、「このゆびとまれっ！」の受け入れ団体として参加してまいりました。視覚障害者と中高生との「ふれあいコンサート」を始め演奏家「会員」とボランティアが手を取り合って「親子で楽しむコンサート」や「やまとっ子芸術探検隊」「お届けコンサート」や「ティータイムコンサート」「0歳児からのコンサート」など幅広い事業を推進してきました。「センター」を通して受け入れた中高生は、会場準備・受付・ケータリング・照明・音響・案内係などを担当し素敵な笑顔で来場者とのコミュニケーションをとりながら与えられた業務を的確にこなしました。毎回、来場者から温かいお言葉をいただいています。今後も、素晴らしい活動を展開している中高生ボランティアや活動団体のみなさんと連携し、「大和に住んで良かった、あの大和に住んでみたい」そんな文化の薫りする『郷土大和』づくりに力を注いでいきます。また多くの登録団体がこれまで「このゆびとまれっ！」事業に参加し、大きな成果をあげることができました。市民活動センターの尽力と温かい心に感謝とお礼をもうしあげます。 大和市芸術文化振興会 小林三夫

2008～2014年 11 団体に協力いただきました。

- ・地域家族「しんちゃんハウス」
- ・サポートハウス「ワン・ピース」
- ・なかよし公園
- ・科学探検隊
- ・サウンドテーブルテニスクラブ
- ・チームピースチャレンジャー
- ・大和市芸術文化振興会
- ・引地川水とみどりの会
- ・WE 2 1 ジャパン大和
- ・デイサービス「ハッピー鶴間」
- ・げんきステーション「より道一休」

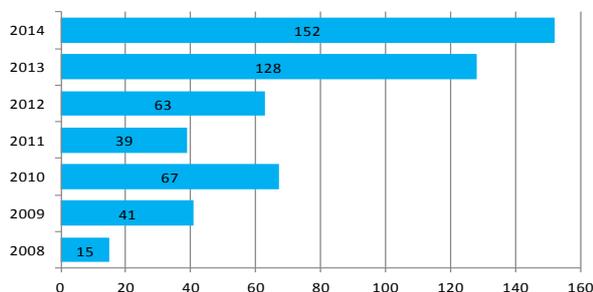


今まで市内外の22校が参加しています。

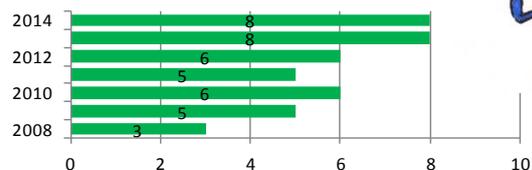
市内外の生徒が応募し、特にボランティア担当教諭がいる学校は人数などから見ると、ボランティア活動が盛んに思われます。

「オリエンテーション」で、活動注意点などが説明され、センターには活動名簿が記録されます。また活動後には「夏の思い出」文集を発行しています。

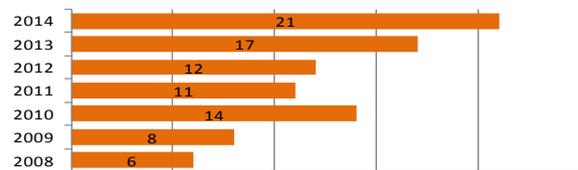
中高生参加(延べ人数)



ボランティア受入団体数



ボランティア活動日数



このゆびとまれっ (夏休み中高生ボランティア体験) ボランティア はじめの一步!



いろいろなボランティア活動を体験しました。

- ・視覚障害者：誘導體験・卓球をする・コンサート鑑賞
- ・高齢者支援：デイサービス訪問・手作りラジオプレゼント
- ・芸術文化：準備・受付・後片付け・楽器の移動・照明・幼児の見守り
- ・知的障害者：絵を描く・ダンボールで工作・公園で水鉄砲・紙飛行機で遊ぶ
一匹チュウ人形劇
- ・子育て支援：公園で子どもたちと遊ぶ
- ・環境保全：引地川の掃除
- ・国際交流：ミサガの袋詰め
- ・国際支援：販売・接客・整理



文集「夏の思い出」より

●2012年 環境支援サポーター (引地川の清掃)

柴田綾菜 座間高校3年

今回2回目の川の清掃ボランティアの参加でしたが、少しでも環境保全へ貢献できたと思うのでよかったです。今年は受験なので、落ち着いたらまた参加したいと思います。大学は環境系の学部に入りさまざまな保全活動をしたいと思いました。ありがとうございました。

●2012年 子育て支援サポーター

(しんちゃんハウスで子どもと遊ぶ)

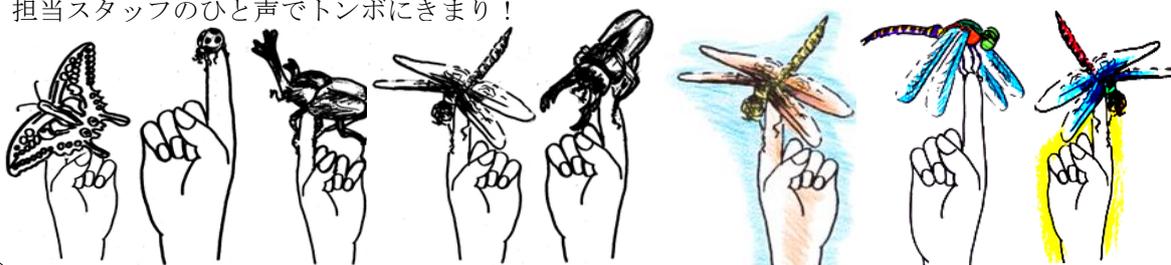
渡辺佳奈 昭和女子大付属高校3年

室内では、トランプやオセロなどで遊んだり、外ではケイドロ、リレーをして子どもたちとたくさん遊べて良かったです。今回は主に子どもたちと遊びましたが、その中で「あぶないからだめだよ」などと言う注意もすることができてよかったです。小1から小6までいろいろな学年の子どもとふれあえて、本当に楽しかったです。ケイドロをするとき、結構本気で走りましたが、すぐおいつかれてしまって、驚きました。しんちゃんハウスでこのような経験をすることができて良かったです。またこのボランティアができればぜひ参加したいです。今日はありがとうございました。



裏方の「ちらし作り」
～この指にとまったのは?～

大和市民活動センターのフリースペースに数名の高校生が集まりました。「丁度良かった! “このゆび” に何がとまったらいい?」とスタッフ。すると「回転ブランコで、みんながぶら下がる!」大笑いから始まりました。「指に何がとまったら、うれしいかな?」いろんな意見が出ました。「蝶が良い」「カブトムシだよ」「てんとう虫がかわいい」など、なかなか決まりません。そんな中、担当スタッフのひと声でトンボにきまり!



●2013年「夏の思い出」より抜粋

高橋ミヤ サウンドテーブルテニスクラブ

大木博子さんのピアノ伴奏で砂川真緒さんが歌うソプラノでの鈴を転がすような歌声と会場の皆さんと一緒に歌った唱歌等々、本当に楽しい一時はあつと言う間でした。(居心地の良い午後のひととき、もう少し聴いていたかった。)その後学生ボランティア一般ボランティアとの交流会、盲導犬の役割や私達の日常生活体験談等を聞いてもらい、今迄以上に障害者への理解を深めてくださった様でした。又、賑やかな団欒の中で更に相互の情報交換も出来たことが嬉しく思います。最後にこの夏の思い出のひとつとして楽しい企画を立てて下さった市民活動センターの皆様方に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

●視覚障害者の誘導體験 2011年・2012年

斉藤瑞希 柏木学園高校3年

初めての体験でとても大変でした。自分が誘導してもらっている時は、まったく前がみえなくて不安で怖かったです。今回教えてもらったので、これからは誘導ボランティアにも参加してみたいと思います。



本告(もとおり)寺彦さん
80才代とは思えないほどメリハリのある厳肅な講義内容でした。



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

< 広報 (館内・館外・Web) >

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第8号 2014年11月1日発行

大和市民活動センター広報事業のはじまり

2004年4月から市民活動センター開設の準備を進めてきた協働の拠点準備会はその役目を終え、10月、新たに「協働の拠点運営委員会」が組織されました。11月1日、市民活動センターはオープンしました。

運営委員会は4部会(広報部会・研修部会・交流部会・相談部会)を設け、事業運営にあたりました。2005年1月、広報部会は活動を開始し、3月31日、広報紙「あの手この手」創刊号を発行。4月28日、ニュースレターの配信を開始しました。

※広報紙については「10年のあゆみ」第4号に掲載。

ニュースレター創刊号より

【INDEX】

- 01. 協働事業提案の募集受付<相談会のご案内>.....お気軽にお立ち寄りください!
- 02. 市民活動推進補助金の応募受付.....締め切りが迫ってます!
- 03. センターで開催の講演・説明会より.....当センターをご利用ください!
- 04. 市民活動センターの利用状況.....数字で見られます!
- 05. 運営委員メンバーによる4つの「活動部会」が発足
- 06. 市民活動センター運営委員会議事録
- 07. 運営委員会 今後の日程のお知らせ
- 08. センター掲示板からのお知らせ
- 09. 「創刊号発刊にあたって」事務局より

2005年3月16日～4月15日		
来館者数	181	累計 904(昨年11月より)
登録団体	16	78
相談件数	10	33
会議室使用	5	29

2005年5月からは、ニュースレターは事務局スタッフが作成し、月末の配信前に広報部会6名(スタッフ1名を含む)が集まり、校正を行ないました。このように大和市民活動センターの広報事業を一步一步作り上げてきました。

※2014年10月15日 Vol.117を配信

館内掲示板

館内の掲示板は、設立当初はボードのみで、ピンでチラシを留めていました。翌年にボード下部に設置するラックを購入し、2008年頃、ボードにクリアケースを留め、そこにチラシを入れる方法を当時のスタッフが考案し、現在のスタイルが出来上がりました。昨年度1年間では、大和市民活動センターに約500件630種類のチラシ等が届き、展示しました。もっと多くの方の目に触れてほしいというのがスタッフの願いです。



2007年8月、館外掲示板を設置



汗と涙の共同作業!

わかりやすい 看板と掲示板 ができた!

バリアフリー彩色オレンジの『看板』。
「大和市民活動センター」と書いてある。
それと、タタミ1畳ぶんほどもある『掲示板』。

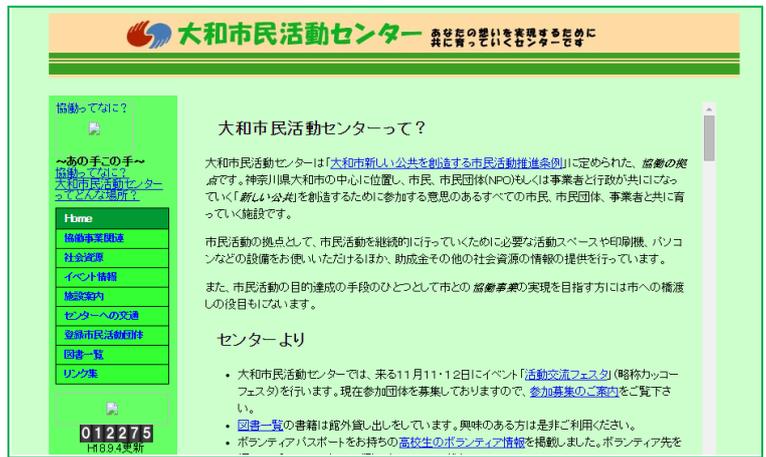
サポーターと、事務局スタッフと、市役所の人と、運営委員で 材料の買出しから組み立て、土木工事まで よってたかって作った、まさに「協働」のたまもの。

市民活動課 Yさん「暑かった～、本当に暑い!」
事務局 Mさん 「皆で力を合わせればできちゃうね。」
サポーター Kさん 「台風にめげなくて安心しました。」
運営委員 Yさん 「楽しかった! っ〜!」

広報紙「あの手この手」第10号掲載記事
(2007年10月2日発行)

**センターオープンから約1年後
2005年10月、ホームページを開設**

ホームページでは、センターに届く情報をお知らせしています。特に、登録団体の情報(イベント・ボランティア・FMやま〜やまとっこ☆みつけた〜出演記録、等)の発信に力をいれています。発信力強化のために2度のリニューアルを行いました。



2008年8月、全面リニューアル



2012年9月、トップページリニューアル



「あの手この手トピックス」は2008年から続くコーナーです。市民活動センターに関するを中心に、協働事業や登録団体のことなど、様々にお伝えしています。



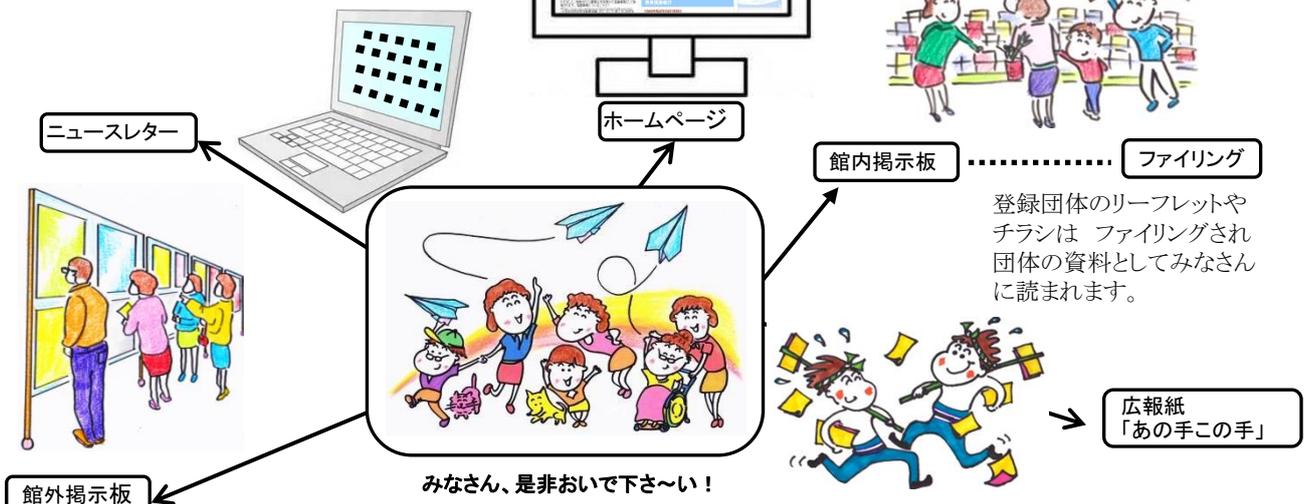
トップページに団体のお知らせを掲載できるようになりました

センターオープン 10周年!

2014年10月、Facebookをはじめました



あなたの活動が大和市民活動センターを通して...





大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

<相談事業>

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第9号 2014年12月1日発行

大和市民活動センターも一緒に考えます。

申請前の **協議期間** には電話予約で相談を受け付けています。

市民活動推進補助金制度

協働事業提案制度 >> そろそろ準備をはじめましょう!

- 1月 企画書提出期間 **協議期間**
- 2月 申請期間
- 3月 公開プレゼンテーション
- 4月 補助金交付

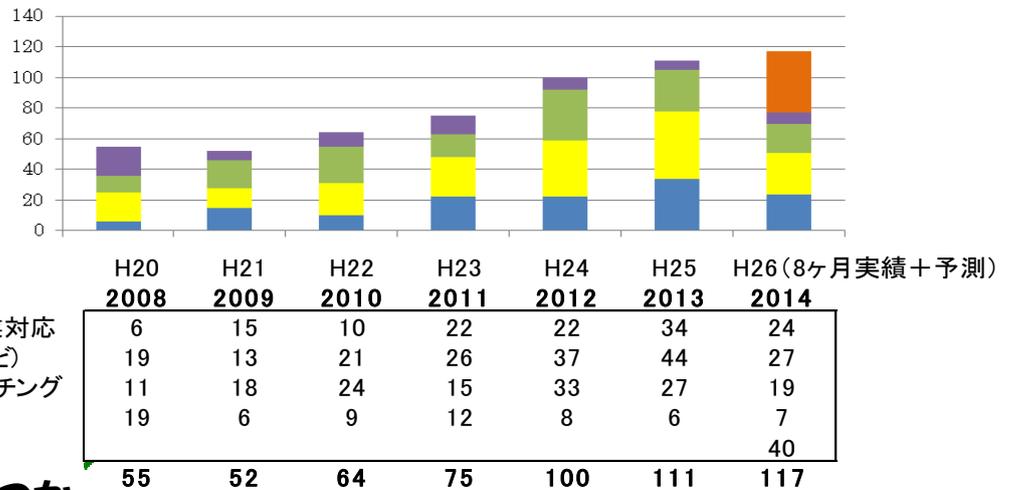
- 4月 企画書提出期間 **協議期間**
- 5月 申請期間
- 6月 市担当課と打合せ
- 7月 公開プレゼンテーション
- 8月 結果発表(次年度より事業開始)



< 相談内容・件数 >

大和市民活動センター受付

- 協働・市民活動補助金事業対応
- 市民活動支援 (IT、広報など)
- ボランティア・団体活動マッチング
- 市民生活相談など
- 相談予測



- ・協働・市民活動補助金事業対応
- ・市民活動支援 (IT、広報など)
- ・ボランティア・団体活動マッチング
- ・市民生活相談など
- ・相談予測

相談事例のいくつか

市民活動相談・NPO設立相談・補助金相談・協働事業相談・ボランティア活動相談・パソコン相談などいろいろな相談を受けてきました。 下記はその相談の一例です。

・立ち上げた会の活動相談

自分達が何をしたいのかを考え、活動拠点を決めてから行動を開始することをアドバイスした。人集めに関しては、第1回目の活動日を「広報やまと」に掲載できるよう助言した。

・団体設立についての相談

発達障害の人をサポートする団体を立ち上げたい人からの電話相談。現在、車椅子なので移動が困難であるが、準備を進めたいとのこと。話を伺い、仲間集めやニーズの収集をする為に「クロスオーバー大和」を紹介した。

・補助金についての相談

営業・企画担当の方が来館し、企業が市の補助金を受給可能かと相談。市民活動推進補助金に関する「相談会」が大和市民活動センターで行われることを伝えた。

・パソコンについての相談

「パソコンを買い換え、操作方法がわからないので教えてほしい。」との相談。第2・4木曜日にパソコン相談日を設けていること、PC支援団体があることなどを伝えた。

・高校生からのボランティア相談

「入学する大学から福祉関係のボランティアを体験するよう言われたので、体験先を紹介してほしい。」との相談。デイサービス「晃風園」とのスケジュール調整や、色々な関係登録団体を紹介した。

ボランティア相談事業

～ ボランティア活動に興味のある方々と ～

大和市民活動センターのボランティア活動相談



ボランティア相談

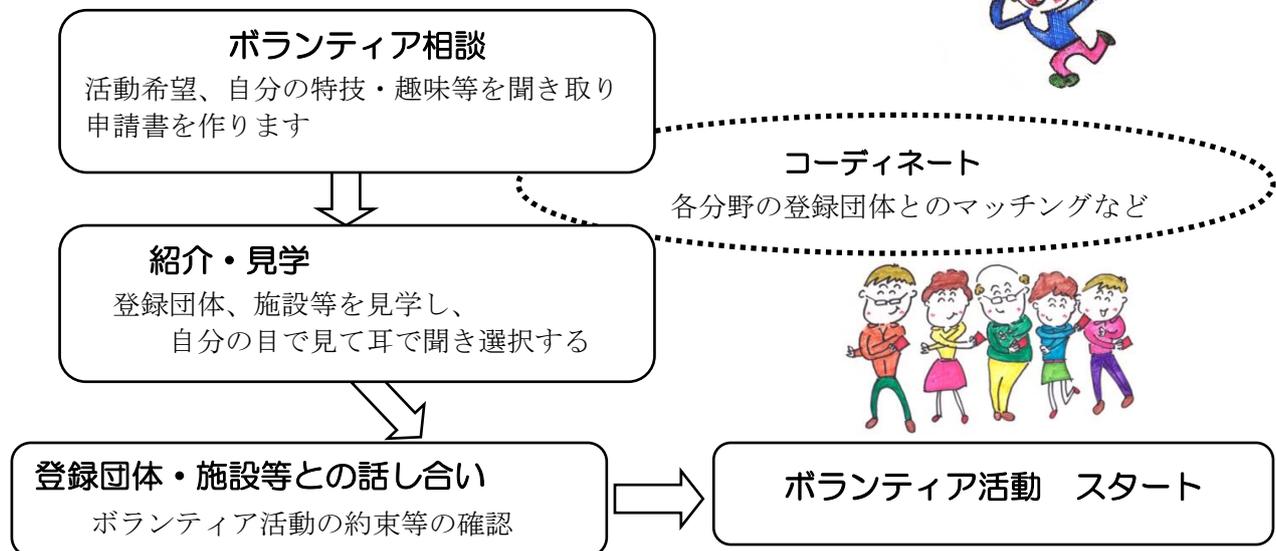
- ・市民、中高生のボランティア活動相談を行なっています。
- ・貴方に合ったボランティア活動を一緒に考えます。

ボランティア活動コーディネート

- ・ネットワークを活用してボランティア参加者と活動団体とのマッチングに努めています。

○ ボランティア相談の流れ

貴方に合ったボランティア活動を一緒に探します。



求めていますボランティア

- ・サウンドテーブルテニスのサポート
(視覚障がい者との卓球)
- ・リサイクルショップでの販売
- ・移動困難の方のサポート
- ・知的障害児や発達障害のある子どもたちの
遊び相手や送迎のサポート
- ・引地川や街の清掃
- ・デイサービス施設での利用者との話し相手、
ゲームの相手など

大和市民活動センターでの相談日

第2月曜日・・ボランティア<10時～17時>

第4月曜日・・市民活動<10時～17時>

第2・4木曜日・・パソコン<10時～12時>

ボランティアに踏み出す一歩

ボランティア活動は特別なことではありません。誰もが住み慣れた地域で人間らしく豊かに暮らしていける社会を目指し、身近な所で自分の出来ることを自ら進んで活動することだと思います。

お年寄りが重い荷物を持って困っていたので手伝った、道でゴミを拾った、またフェアトレード(貧しい国の人々の生活に配慮した対等な貿易)の製品を買った、着なくなった服・使わない食器を寄付した、など何気ない日常生活の行動がボランティア活動に繋がっています。

一歩前に進んで、ハンディキャップのある方や高齢者と共通の趣味(音楽鑑賞・短歌・俳句・サウンドテーブルテニスなど)を見つけ、スポーツ・外出のサポートをやっていたら誰かの笑顔に出会うはず。デイサービスで、自分の趣味を披露・話し相手・ゲームの相手など自分に合ったボランティア活動を探してください。

きっと「ありがとう」の一言をきっかけに感動や喜びに出会い、充実感や達成感が得られると思います。ボランティア活動を通じてさまざまな人たちと出会い、人との繋がりを広げていってほしいと思います。

ボランティア担当：櫻井



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

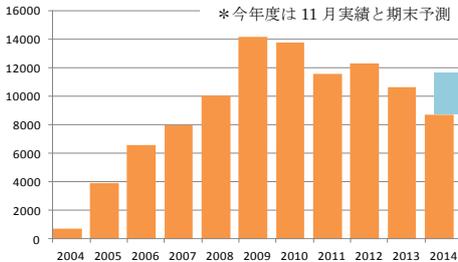
<施設の活用>

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第10号 2015年1月1日発行

来館者数累積はこの10年間で10万人 ～寄ってみたいくなるセンターに～

「大和市民活動センター」は2004年11月1日オープン。今年度10周年となりますが、当初「大和市協働推進会議」また、そこから生まれた「拠点部会」「協働の拠点準備会」の仲間が設立を目指して精力的に取り組まれました。建物内外のリフォーム・塗装作業や床張り作業等、まさにボランティア精神に基づいた活躍が続きました。更に「協働の拠点運営委員会」の発足で、「センターの認知」「施設の活用」を多岐にわたり呼びかけてきました。

大和市民活動センター年度別来館者数



大和市民活動センターはどこ？

～大和駅から南に
徒歩2分
イチョウの木を目印に～

大和市民活動センター運営は 「協働事業」の一環です ～大和市民活動課と市民活動団体「拠点やまと」～

2000年<市民と行政の協働で豊かな大和をつくりましょう>をスローガンに「市民活動団体実態調査」が行われました。

活動を進めるうえで困っていることは？

- ・ 活動の場が無い
- ・ 運営の人材がない
- ・ 資金が足りない
- ・ 会員が集まらない

協働のための行政支援として重要と思うものは？

- ・ 会合の場の提供
- ・ 広報誌の利用
- ・ 情報提供 などが集計されました。

そして2002年7月の「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」また、2004年11月の「大和市民活動センター設立」につながって行きました。

大和市民活動センター事業は下記を柱にしています。

- ☆ 活動のために使ってください。
- ☆ 情報収集に活用してください。
- ☆ PRのために使ってください。
- ☆ 交流の輪を広げてください。
- ☆ 皆さんの想いを聞かせてください。
- ☆ 市民事業、協働事業の発展に向けてお手伝いをします。

番外編



カラー印刷機（高速）の設置は未だです。長年の夢ですが… いつか夢の実現を！

入口(A)からは「活かそう！ひろがりのわ つながりの手」～ようこそ大和市民活動センターへの看板が目に入ります。

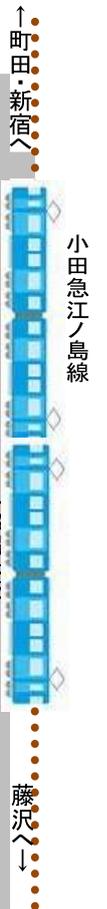
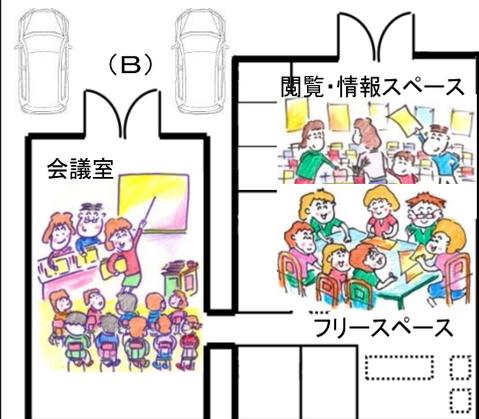
フリースペースは開館時いつでも自由に使用できます。

←大和警察署・マルエツへ

商工会議所側入口



7台分の駐車ができます。



< 施設の活用 >

～ 人との出会い センター活用 活動のひろがり ～

*登録団体からは、このような意見や質問がありました。

●「入口のブザー？ベル？ 何なの～？」

車いすの方のためのチャイムです。「チャイムを押していただければ、スタッフがスロープ板を持って参ります」と表示してあります。

建物自体はバリアフリーの構造ではありませんが、車いすの方はスロープ板を使い、会議室やトイレを使用することができます。ポートアームが付いています。



●「印刷で待たされるんだけど…」

「お早うございま～す」朝早くから我一番と印刷機使用者が来館されます。普段はそんなに混まずに問題無く活用されています。「紙折機」も新規購入で“便利な市民活動センター”を目指します。ほとんどの方は予約無しで高速印刷できます。普段は待つ時間もない平均 400 枚弱ですが、4 月度はチョッと混みだして倍以上の 1 件 1000 枚強になります。どこも総会資料準備などで忙しくなるからです。



●「他の団体さんは何人くらいで使用するの？」

会議室の使用頻度は月に約 60 件です。会議室のテーブル・イス使用で 20 名程度の広さで、使用記録では平均 8 名と

なっています。2 人での相談・対話形式から最高 41 名の集会もあり、フレキシブルに使える冷暖房完備の会議室です。



●「フリースペース、いつ空いています？」

午前・午後・夜間で分けると“来館者数”では、今期大体 1/3 づつ (33%・35%・32%) です。“使用件数”でいくと夜間は 1/4 弱ですので、大きな会議などで使われていることが分かります。予約なしの印刷機使用は朝が多く、昼は活動打ち合わせ等、夜は会議が多いようです。「住民票はここ？」「検定場所は？」「入社面談のお部屋は？」おとなり商工会議所とよく間違われます。



●「腰が痛くて、私は多目的ルーム駄目よ～」

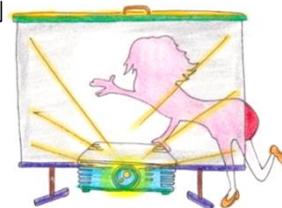
多目的ルームは数名の話し合いなどで使用されています。畳部屋ですが、内部用のイスを用意しますので申し出て下さい。相談会や少人数集会、また大和駅前プロムナード行事の“着替えや控室”などとしては便利な場所です。

会議室利用者のベビーシッターや子ども部屋としても開放しています。



●「ここにきたら何かができる…」

「人と人」「人と団体」「団体同士」のネットワークを作り、市民活動を広げる為には場所や色々な道具・メディアの活用が必要です。「大和市民活動センター」で活用できるものは、気楽にお使いください。



●「トイレが2つ、それも広すぎるってやーね～」

そうですね♪ 2坪のトイレが2つ並ぶとちょっと驚かれる方もいます。改造前は、相談室や倉庫などに使用されていたようです。そういえば、ノックをすると向こう側に相談員が机に控えて待っている様なシッカリした扉です。



- ・会議室 (20 名)
- ・多目的ルーム (6 名)
- ・フリースペース
- ・掲示/情報スペース
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・印刷機
- ・ロッカー
- ・レターケース
- ・コピー機
- ・パソコン
- ・裁断器
- ・紙折機
- ・ラミネーター
- ・給湯室
- ・トイレ

また団体同士の預り物や、メール便の受付なども行っています。



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「**10年の歩み**」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

< 共育セミナー >

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第11号 2015年2月1日発行

ともい

共育セミナーはセンターのモットーである「共に育ち合う」ことを目的に実施してきました。

「市民活動を広げるために…」「ボランティア活動のきっかけに…」「他の団体と手をつないで…」

「仲間を集めたい…」などなど、いろいろなテーマで取り組んできました。

共育セミナーの変遷

センター設立当時は、月1回「協働の拠点運営委員会」が開催され、「広報」「交流」「相談」「研修」の4部会が生まれました。

講師は・・・

テーマにあった人を登録団体から選んでお願いしたり、外部から講師を招いたり、スタッフが講師になったりと、まさに“共育の実践”です。

「市民活動団体と企業・事業者との縁結び」と題してのセミナーでは、企業から講師をお迎えしました。

交流部会が「ティーパーティ」、「おしゃべりラウンジ・パルス」を立ち上げ、並行して研修部会が「共育セミナー」を毎月行うようになりました。

2008年3月5日(水)開催のセミナーは・・・

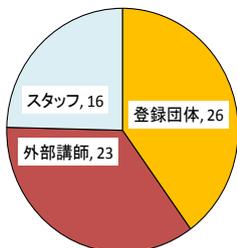
「黄色いレシートキャンペーン」を通じて、支援を求めるボランティア団体と、応援したいというお客様を結ぶ取組みを展開し、地域のコミュニティーの一員であることを大切にしている「イオン大和鶴間店」副店長の白川富一さん。

2008年4月26日(土)開催のセミナーは・・・

地域とのきずなを大切に、地域の情報の橋渡し役としての月刊情報紙「HIT」を発行。また、「ふれあいの場」として、会議室をコミュニティー・スペースとして地域の人たちに提供している「平田自動車工業」の代表取締役平田行雄さん。

2010年4月24日(土)開催のセミナーは・・・

事業者が参加する新しい公共「活かそう！携帯電話でひろがりの輪 つながりの手」では、ドコモショップ大和店の店長・股部さん、菅原さん、加藤さん。



講師の分野別分類



第39回セミナー「市民活動でIT支援」の講師・市職員の市川さんと「拠点やまと」の望月（イラストも望月）

「知れば知るほどおもしろい大和市です」はPART6まで続きました

「知れば知るほどおもしろい大和市 PART1」はタウンニュース社長谷川あい子さん。

PART2「みんなが知らない国際交流」にやまと国際フレンドクラブ（IFC）長谷部美由紀さん。

PART3「加留多(カルタ)が教えてくれる大和市」に『中央林間博覧強記加留多』を作成した市川秀雄さん。

PART4「大和市をもっと知りたい」はリベルタ編集長丸山佐和子さん。

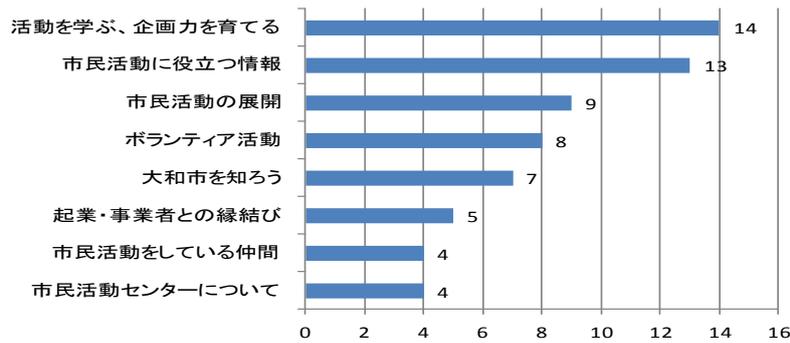
PART5「おいしい大和市を知りたい」～大和の推奨品を味わいましょう～では推奨品を味比べ。

PART6「おいしい大和市を知りたい」の2回目を開催し、おおいに盛り上がりました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 参加者数ランキング ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

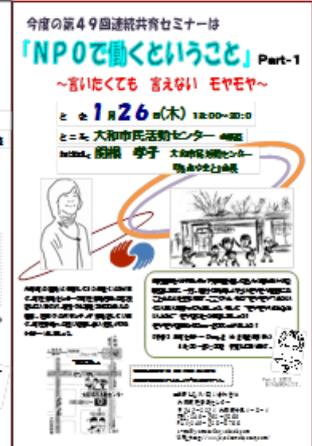
- | | |
|---|---|
| 1. (41人) 第34回「フィルムコミッションてな～に？」
～フィルムコミッションで街を活性化させよう～
講師：杉下 由輝さん | 4. (25人) 第41回「パワーポイントを使ってみよう」
～プレゼンテーションも楽しく～
講師：望月則男さん |
| 2. (31人) 第22回「仲間を集めたい」
講師：望月則男さん | 5. (24人) 第28回「平和の種をまきたい」
講師：阿部ひそかさん |
| 3. (26人) 第60回「協働事業から見えてきたもの」
しんちゃんハウス・ふくしの手全員集合
ドラマティックカンパニー・ケアびーくる | 6. (23人) 第61回「今どきの広報事情」
～Webを活用しての広報～
講師：山田泰久さん |

セミナーテーマ別ランキング (64回セミナーをテーマ別開催数で見ると…)



「共育セミナー」のチラシ・デザインも内容と共に、色々と変化してきました。

- 第 1～14回 「マネージメントセミナー」
ない ない シリーズ
- 第15～19回 「マネージメントセミナー」
いる いる シリーズ
- 第20～21回 「たのしいセミナー」 シリーズ
- 第22～28回 ～したい シリーズ
- 第29～64回 各タイトル・団体紹介の
＜デザイン参加型＞ シリーズ



臨時のセミナーを開催しました

「未曾有の大災害 あなたは何ができますか？」
～東日本大災害の被災地からの緊急報告～

報告者：市民活動課北島次郎課長（現市民経済部部長）

陸前高田市へ大和市の支援団として現地におもむき、支援物資の引渡し、そばやうどんの炊き出し、救援物資の仕分け作業などをとおして被災地で視えたものを伝えました。

セミナーで学んだことを実践

10周年記念交流会では、1分間エレベータートークを実施
初めて会った人に1分で自己紹介（ショートプレゼンテーション）

県サポートセンターでのセミナーに参加して、自己紹介の方法のひとつを学び、10周年記念交流会で実践してみました。
いかに自分の活動をコンパクトに伝えるか、2回ほど練習してから本番に臨みました。



参加された皆さんは、初めてのことで戸惑っていたようでしたが、1分ピッタリの人もいて、活動紹介が盛り上がりました。



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「10年の歩み」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

<登録団体>

発行・大和市民活動センター「10年の歩み」 第12号 2015年3月1日発行

大和市民活動センターの登録団体は264団体(2月24日現在)
そのうち約半数が「市民活動団体」です。



市民活動センターの登録団体のうち、市民活動を主たる目的とする団体をリストアップしてみました。

地道な活動を長く続ける団体、大きく飛躍した団体、新しく生まれた団体、それぞれの団体が自ら発見した課題について、解決に向けて活動し、私たちの暮らす大和市を豊かにしています。

引地川の掃除をする団体は、同時に子どもたちが地域の川に親しむことができる活動を行なっています。患者さんの外出介助サービスを行うNPO法人大和市腎友会は、大和市の協働事業では小中学校に出張し、児童や生徒に福祉について理解を深めてもらう教室を開いています。このように重層的な活動を行う団体も数多くあります。

登録団体については市民活動センターまでお問い合わせください。身近な問題を発見した時、市民活動を始めませんか。

大和市長の森を源流とする引地川で活動する2団体をご紹介します。

【引地川水とみどりの会】

2004年から毎月1回引地川の清掃をしています。小学生の頃から活動している「こどもエコクラブ」の子どもたちはこの春高校を卒業します。地域の川に親しみ、環境問題に取り組みながら成長していく子どもたちを大人が見守っています。

【柳とあそぼう引地川実行委員会】

1990年、「引地川かわくだり実行委員会」が7月の海の日の清掃を開始。この活動をきっかけとして日本で初めて三角コンクリート護岸が自然護岸(ふれあい広場草柳護岸)に復元されました。「柳とあそぼう引地川実行委員会」は草柳護岸を管理する活動をしています。2004年、大和市中で絶滅したと言われていたハグロトンボの復活を確認、個体数の調査を開始し、2014年に調査結果を日本昆虫学会関東支部第51回大会で発表しました。日本ではまだめずらしいシチズン・サイエンスの活動となっています。

大和市民活動センター「市民活動団体」

※登録団体には市民活動団体の他、生涯学習の団体、自治会などがあります。

福祉

障害のある人の作業所・就労

- ・社会福祉法人やまねっと
大和泉の森作業所
- ・障がい者自立支援事業所
パン工房 麦の香り
- ・薬樹ウィル株式会社
- ・社会福祉法人すずらの会
ワークセンターやまと

地域福祉

- ・深見大和地区社会福祉協議会
- ・共生型コミュニティ「ひだまり」

その他

- ・NPO法人日本ハンディキャップ
テニス連盟
- ・NPO法人脳外傷友の会ナナ
- ・日本アニマルセラピー協会
- ・音楽療法なごみの会

視覚

- ・点図サークル オーロラ
- ・サウンドテーブルテニスクラブ
- ・アダプティブテクノロジー
- ・大和市録音奉仕会
- ・大和市身体障害者福祉協会視覚部
- ・大和市点訳赤十字奉仕団

聴覚

- ・大和市手話通訳者の会

こころ・精神

- ・特定非営利活動法人大和さくら会
- ・大和さくら会SST勉強会
- ・NPO法人共に歩む市民の会
- ・一般社団法人ハッピークローバー

移動制約者のための移動サービス

- ・NPO法人ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる
- ・NPO法人大和市腎友会
- ・NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
- ・NPO法人たんぼぼ

多文化共生・海外支援

外国籍の人の支援・日本語教室

- ・NPO法人かながわ難民定住援助協会
- ・かたつむりの会
- ・日本語教室「やまと・ともだち」
- ・NPO法人日本ペルー共生協会
- ・NPO法人在日カンボジアコミュニティ

外国籍の人と友達になる

- ・大和地区日中友好協会
- ・やまと国際フレンドクラブ(IFC)

海外支援

- ・認定NPO法人地球の木
- ・NPO法人WE21 ジャパン大和
- ・認定NPO法人いきいきフォーラム草の根支援
- ・チームピース チャレンジャー
- ・財団法人海外日系人協会
- ・NPO法人ネパールの子どもたちを援助する会
- ・NPO法人APLA

高齢社会

介護

- ・NPO法人ワーカーズ・コレクティブ想
- ・NPO 法人ひよどり(デイ南林間なんてん)
- ・市民のための介護保険をつくる会
- ・社会福祉士の会「やまと」
- ・介護のハッピー合同会社
(デイサービス ハッピー鶴間)

住まい

- ・ハウスメンテ大和

配食サービス

- ・NPO 法人シニアネットワークさがみ
- ・企業組合たぶの木

時間預託制のボランティア

- ・NPO 法人ニッポン・アクティブライフ
クラブ(横浜拠点)

生きがいづくり

- ・一般社団法人神奈川健康生きがいづくりアドバイザー協議会
- ・一般財団法人日本いきいき財団
神奈川本部

住まいの問題

- ・NPO 法人かながわ県央マンション管理
組合ネットワーク

健康

- ・健康を考える会
- ・NPO 法人日本ハートエステ協会

芸術

- ・大和市芸術文化振興会
- ・「結い」音楽フェスティバル

食に関わる活動

- ・生活クラブ 光丘クラブ
- ・食のアトリエ
- ・なないろ畑農場
- ・大和市食生活改善推進協議会
- ・さがみ生活クラブ生協 大和コモンズ
- ・生産者と消費者が手をつなぐ会大和
- ・たべものがかり

IT 支援

- ・親子でインターネット利用を考える会
- ・NPO 法人ヒューマン ICT 推進委員会

地域

地域通貨と地域の助けあい

- ・地域通貨グループ クラママ
- ・NPO 法人なんでもプラス地域ネット
- ・一般社団法人 Give & Take Plus

地域の活性化

- ・社団法人大和青年会議所
- ・NPO 法人 NPO あつぎみらい 21
- ・大和市イベント観光協会
- ・元気な商業まち創造プロジェクト
- ・ふるさとやまと実行委員会
- ・ドラマティックカンパニーYamato50
- ・やまとプロムナード古民具骨董市実行
委員会
- ・南輪乃声 元気会
- ・大和市地域活性化実行委員会
- ・大和市の観光資源を発掘・企画する会

被災地支援

- ・チームしらかし華の会
- ・一般社団法人やまと災害ボランティア
ネットワーク
- ・福島の被災地にとり残された犬猫を
救う会

平和の推進

- ・大和平和の白いリボンの会
- ・ヒロシマから平和を考える実行委員会
- ・憲法九条やまとの会
- ・大和市革新懇
- ・大和ぶんぶんプロジェクト
- ・公益社団法人全国自衛隊父兄会
神奈川県自衛隊父兄会 大和地区会

ボランティア

- ・トイドックやまと
- ・バルーンアート
- ・関東学院大学ボランティアサポーター
- ・緑手品クラブ
- ・NPO 日本を美しくする会・大和掃除に
学ぶ会
- ・国際ソロプチミストやまと-e

事業者

- ・Aregria(アレグリア)
- ・カットスタジオみどり
- ・ドコモショップ大和
- ・橋本法律事務所
- ・似顔絵 bovo
- ・タムタムランニングクラブ

子ども・子育て

障害のある子どもたち

- (全般)
- ・NPO 法人フェアネット
- (知的障害)
- ・NPO 法人サポートハウス・ワンピース
- (発達障害)
- ・NPO 法人ピコピコ
- ・一般社団法人クロスオーバー大和
- (肢体不自由)
- ・あそぼー会

親の会

- ・コミュニケーション“談”
- ・らんとまん(軽度発達障害児をもつ
親の会)
- ・大和市肢体不自由児者父母の会
- ・awish(あういっしゅ)
- ・病気や障がいを抱える子どもの親の会
はっぴい・くろ〜ぼ〜
- ・大和さくら里親会

子育て支援

- ・NPO 法人大和子どもミニデイサービス
ワーカーズ・コレクティブもこもこ
- ・NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ
チャイルドケア
- ・子育て支援「やまと虹の色」
- ・NPO 法人マイセラ・ジャパン
- ・さくらの森保育園
- ・NPO 法人ゆうがく
- ・栄養サポートやまと
- ・Yamato 子育てママ応援プロジェクト

子どもを守る(防犯)

- ・NPO 法人やまと CAP ひまわり
- ・少年警察ボランティア 大和少年補
導員連絡会

子どもの育ち

- ・NPO 法人地域家族しんちゃんハウス
- ・大和市子ども会連絡協議会
中部Iブロック
- ・渋谷さきりん未来の会
- ・大和南部おやこ劇場
- ・大和北部おやこ劇場
- ・NPO 法人科学探検隊
- ・ツリーガーデンの存続を願う会
- ・NPO 法人薫風
- ・NPO 法人さくらんぼ
- ・NPO 法人まんま
- ・NPO 法人ピーブウ・ラボ

不登校・ひきこもりの人の支援

- ・NPO 法人湘南市民メディアネットワーク
- ・NPO 法人ぜんしん

引地川をきれいにする

- ・柳とあそぼう引地川実行委員会
- ・引地川・下福田子どもの水辺協議会
- ・引地川水とみどりの会
- ・引地川かわくんだり実行委員会
- ・引地川ハグロトンボ調査隊



環境

環境を守る

- ・久田緑地くらぶ
- ・やまとケナフの会
- ・大和ホテルを楽しむ会
- ・トコロジストの会
- ・さよなら原発やまとパレード実行委
員会
- ・畑ふらわーボラの会
- ・大和エコライフ委員会
- ・かながわ森林インストラクターの会

10周年記念交流会

テーマ：課題は未来につながる ～これからの10年を考える～

日時：平成26年11月22日(土) 13:00～16:30

場所：勤労福祉会館3Fホールにて 参加者：58名



1部の市民活動センター10年の歩みでは、市民経済部の北島部長が開設までを、開設からの10年を拠点やまと会長の関根がパワーポイントで紹介した。

2部のエレベータートークでは1分間の自己紹介を経て出てきた課題について、全員で話し合あった。

3部の茶話会では、懐かしい人との再会や、お互いの活動についての話でおおいに盛り上がった。



エレベータートークって？

初めて会った人に1分間で自己紹介。

今回は所属している団体の活動紹介を2人ペアになって実施。

1回目が終わったところで、1分を十分活用できるように修正して、2回目に挑戦。3回目は全員に向けての発表とした。自分たちの活動の整理をして伝え、そこから課題もみえてきたところで、参加者全員での意見交換会となった。

課題は大きく5つに分けられました(☆印は他団体からの意見、アドバイス)

活動する人材・ボランティア

- ・ スタッフが増えない。
- ・ 活動がひろがり、ボランティアが足りない状況が続いている。
- ・ 仕事の合間を利用したボランティア的な活動なので、時間と内容に制限が生じている。

・ スタッフのスキルアップと充実

・ 地域密着のボランティア

☆イキイキとした活動があることを見せて、知ってもらうことが大事では。

☆同じような目的をもって活動している団体同士がいっしょに活動できないか。

☆NPOや自治会がつながって、地域が幸せになることが私の望みです。

世代交代

- ・ メンバーの高齢化→世代交代したい。
 - ・ 高齢化でプラスに考えられない。
 - ・ 実行委員が交代できない。新しい仲間も増えない。
- ☆この人とねらいを定めて、引き込むことも必要。

PR活動

- ・ 協働事業などの市民活動が残念ながら多くの市民に承知してもらっていません。広報紙だけではなく、PRの工夫が必要。
- ☆自信をもって活動をPRする。
- ☆イベントをたくさん企画してボランティアの機会を提供し、常にボランティア情報を発信して活動を継続してもらっている。

資金調達

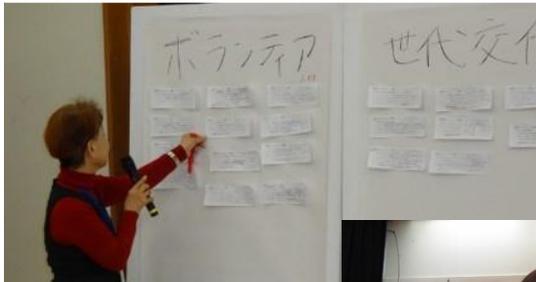
- ・ 資金調達に苦心している。

☆企業と活動グループとのマッチングの企画。

企業・地域との関わり

- ・ 発達障害の人たちが社会に貢献することを望んでいるので、市内にその場を見つけない。

☆センターが企業と活動団体の架け橋になってほしい。



課題をまとめ、意見交換をしました。



1分間で自己紹介。
シッカリ時間を計りました。



自己紹介フォームに沿って、活動内容、課題をまとめました。



作業所の美味しいパンで交流会。市民活動推進基金に寄付もいただきました。

その他

- ・ 常勤スタッフがいつも拠点において市民活動の次のステージを開拓するための調査研究や研修ができるとうい。
- ・ 継続は力です。今後も頑張る。
- ・ 協働事業がきっかけで市民の多くが恩恵を受けています。
- ・ 拠点が複数あったら、サテライトに特派員がいたり、足りない部分を他が補うような仕組みづくりができるのでは。
- ・ どうして補助金が必要なのか、補助金が無くなった場合のことを考えておく必要がある。

10周年記念パネル巡回展 大和市内を巡回しました。

H26年 12月 16日(火)～12月 19日(金) 大和市役所ロビー
 H27年 1月 28日(水)～ 1月 31日(土) 渋谷学習センター (IKOZA)
 H27年 2月 3日(火)～ 2月 7日(土) 桜丘学習センター

- ・ ようこそ「大和市民活動センター」へ
- ・ 大和市民活動センターって？
- ・ 大和市民活動センター「登録団体」
- ・ 「カッキーフェスタ」「団体交流会」
- ・ 広報紙「あの手この手」
- ・ 大和市8駅「あの手この手」表紙
- ・ FMやまと ～やまとっこ☆みつけた～
- ・ ネットワーク交信
- ・ ボランティア活動推進連続
- ・ 「共育セミナー」



大和市民活動センター設立10周年記念

ようこそ 「大和市民活動センター」 へ

楽しいことは一緒に！ 困ったことはみんなで解決！

1. 人と話してみたい
2. 誰かに聞いてもらいたいことがある
3. ついついテレビを見過ぎてしまう
4. 知りたいこと、探したいことがある
5. 得意なスキルがある
6. ボランティア活動に興味がある
7. 自分の活動を人に広げたい

一つでも該当したら 一度 大和市民活動センターに 寄ってみて下さい

あなたの活動を広げましょう

大和市民活動センターって？

大和市民活動センターは あらゆる市民活動を 推進・応援・共有 する施設です。

「拠点やまこ」が 市民活動課(行政)と 協働で管理・運営して いる協働事業です。「広がる活動・交流の輪」を 目指して、共に育ち合う “共育”をモットーに活 動しています。

市民活動とは 地域や社会の課題を 解決しようとする 公益性のある活動の ことです。こんなことができたなら 暮らしやすくなる、気がつ いた人が行動する。

新しい公共とは 行政だけに公共を委ねる のではなく、市民、市民 団体、事業者、行政など、地 域に関わるすべての人が 知恵や力を出し合いなが ら、地域の公共的課題を 発見し、解決していくと いう考え方で、“新しい公共”を創造して いくための手段のひとつ が協働事業です。

何をやるどころ？

- ・活動を伝える
- ・活動を広げる
- ・活動につながる
- ・人がつながる
- ・情報を得る
- ・情報を発信する

活動が充実して 生き生きできる

自分の時間を 誰かのために・・・ 市民活動団体からの手、技術 を求めています。どんな活動があるのか、知りたいと思ったら、センターのスタッフに聞いて ください。

ボランティア活動の働き方

どんなボランティアが あるの？

- ・サロンドサービス(認知症支援)のサポート
- ・リサイクルショップでの販売
- ・福祉施設や市の施設サービス
- ・地域の商店や商店街のある子どもたちの遊び場や遊歩道の整備
- ・高齢者や障がい者
- ・チャーターバス運転、利用者 の話し相手、お返しレセ

どこにあるの？ 大和駅東口から徒歩2分 青少年センターの手前、 商工会議所の隣です。

大和市民活動センター「登録団体」

大和市民活動センター 登録団体 (活動分野)

みなさんと一緒に
色々な活動を
「共育」としてとって
続けています。

活動イベント「カッコフェスタ」「団体交流会」

広報紙「あの手この手」

大和市に

駅はいくつ
あるでしょう？

大和市8駅「あの手この手」表紙絵



FMやまと～やまとっこ☆みつけた～



ネットワーク交信

活動をつたえる
市民活動センターには市民活動情報が集まります。情報を伝える媒体は4種類あります。

ラジオ(FMやまと)

Web

掲示榜

広報紙

NPO
市民活動
ボランティア
登録団体
人
情報

活動がひろがる

市民活動センターからひろがるネットワークがみなさんの活動を応援します。参加をお待ちしています。

ボランティア活動推進



連続共育セミナー



これからも みなさんと 市民活動！



1

大和市民活動センター 10周年記念交流会

設置されるまでの経過について
市民経済部長 北島次郎

2

2002年度(H14年度)

7月 大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例施行
⇒ 同条例第9条に「協働の拠点」の設置が規定される

第9条 市民等、事業者及び市は、協働の原則に基づき、それぞれの役割分担に応じて、社会資源の充実を図るための協働の拠点（以下「協働の拠点」という。）を設置し、その充実に努める。

9月 大和市協働推進会議準備会を組織

3

2003年度(H15年度)

4月 大和市協働推進会議を組織
⇒ 拠点部会での検討が始まる

7月 視察：みなとNPOハウス(東京都港区)
アリスセンター(神奈川県横浜市)
横浜市市民活動支援センター(神奈川県横浜市)

1月 ワークショップ開催「協働の拠点の機能を考える」
2月 ワークショップ開催「協働の拠点の運営を考える」

4

みなとNPOセンターへの視察 (平成15年7月2日)



5

ワークショップ「協働の拠点の機能を考える」

①(平成16年1月17日)

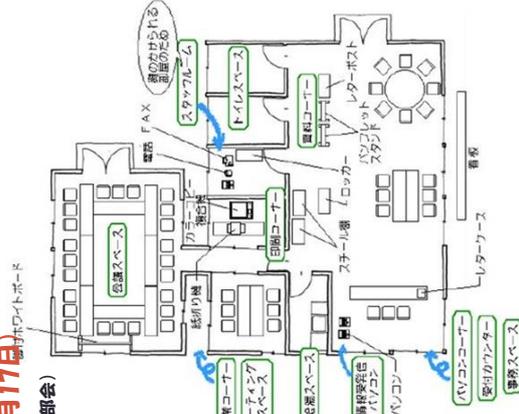


6

ワークショップ「協働の拠点の機能を考える」

②(平成16年1月17日)

大和市協働ルール(拠点部会)
ワークショップニュース



7

ワークショップ「協働の拠点の運営を考える」

(平成16年2月8日)



8

2004年度(H16年度)

- 4月 協働の拠点準備会を組織
⇒ 拠点部会とワークショップ参加者等により構成
- 8月 センターの内外装塗装のボランティア作業
センターの整備作業
- 10月 協働の拠点運営委員会を組織
⇒ 協働推進会議委員3名、協働の拠点準備会4名
公募市民10名、事務局長1名

協働の拠点準備会

(平成16年8月11日)

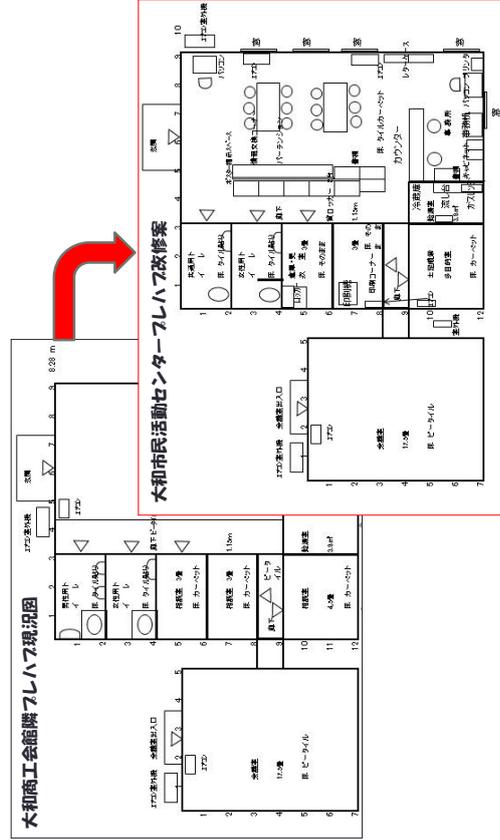


センター改修内容

【本館】

- ・屋根塗装、外壁塗装
 - ・内装(壁面、天井 ベニヤ部)塗装
 - ・床面 タイルカーペット張替え
 - ・トイレ改修
 - 腰壁等の塗装
 - 洋式に変更、手洗い移設、カギ付き引き戸に変更
 - ・エアコン改修、掲示板設置、市民活動センター看板
- 【会議室棟】
- ・壁面 ベニヤ部塗装
 - ・フレハズ柱 補強工事

センター改修図面



塗装協会による内外装塗装のボランティア

(平成16年8月22日～6日)



36

14

センターの整備作業 延べ31名が参加

(平成16年8月29日、30日)

広報やまと(平成16年12月1日号)

市民活動センターの整備作業

ここから広がる市民活動

大和市民活動センターがオープンしました

市民活動センターの整備作業が完了し、12月1日より正式にオープンしました。本館は、市民活動の拠点として、市民の生活に寄り添ったサービスを提供していきます。

市民活動センターは、市民の生活に寄り添ったサービスを提供していきます。市民活動センターは、市民の生活に寄り添ったサービスを提供していきます。

市民活動センターは、市民の生活に寄り添ったサービスを提供していきます。市民活動センターは、市民の生活に寄り添ったサービスを提供していきます。

1

大和市民活動センター 10年の歩み

拠点やまと 会長 関根 孝子
2014. 11. 22

運営の変遷

- ☆2004年11月～2008年3月
協働事業 運営主体:協働の拠点運営委員会
- ☆2008年4月～2009年3月
補助金事業 交付団体:拠点やまと
- ☆2009年4月～現在
協働事業 運営主体:拠点やまと

13



3 協働の拠点運営委員会時代 (3年5か月)

広報部会

広報紙「あの手の手」発刊 2005年3月～

ホームページ作成 2005年10月

ニュースレター配信 2006年1月～

FMやまと「やまっこ☆みつけた」出演 2007年12月～

交流部会

ティーパーティ 18回 おしゃべり・ラウンジ「パルス」8回

フォーラム 1回

研修部会

マネージメントセミナーを中心に「共育セミナー」19回

相談部会

市民活動相談、協働事業・市民活動推進補助金の相談



4 運営委員会方式から 市民活動団体の運営に

協働事業の見直し、補助金事業⇒協働事業として再出発



2008年4月

「拠点やまと」設立

運営委員有志
+

事務局スタッフ有志

センター事業構成

(1) 市民活動に関する交流
と共育の推進

(2) 市民活動に関する情報
の収集及び提供

(3) 社会資源の創出及び発信

(4) 市民活動及び協働事業
に関する相談や研修



5 市民活動センターは 「出会いの場」「つながりの場」

来館者数 96,910人 登録団体数 260団体



6 情報の発信 市民活動の“今”を伝える

広報紙「あの手の手」第88号発行

「ニュースレター」Vol.118 配信

H.P.情報はいつも新鮮

Facebook も始めました

「FMやまと」市民活動センターだより

「やまっこ☆みつけた」

225 団体が出演 活動を紹介しました





7 高校生ボランティアの

10年間で

1018名が活動しました

ひろがり



9



あの手この手のマークの間のSはsolution(解決)のSです



楽しいことがあるのなら	みんなで一緒に楽しもう
あの手この手で考えて	あの手この手で楽しもう
困ったことがあるのなら	みんなで一緒に解決しよう
あの手この手で考えて	あの手この手で解決しよう
あの手この手の作戦会議	あの手この手で問題解決

8 キーワードは



共育セミナー 64回実施
 協働事業・補助金の相談
 市民活動、ボランティア相談
 パソコン相談、IT支援



エレベータートーク実習 ～初めて会った人に活動内容を1分以内で話せるように～

- 1) 団体名 _____ の 名前 _____ です
- 2) 私たちの団体は _____ を目的に活動しています
- 3) その実現のために _____ といった事業を展開しています
- 4) 私たちの事業の特徴は _____ です
- 5) でも、 _____ 課題を抱えています

エレベータートーク実習 ～初めて会った人に1分で自己紹介できるように～

- 1) 元協働の拠点運営委員 の (名前) _____ です
- 2) (目的) _____ をしたいと思い、運営委員に応募しました
- 3) (在任中にできたこと) _____ といったことを行いました
- 4) (やり残したこと) _____ です

エレベータートーク実習 ～初めて会った人に1分で自己紹介できるように～

- 1) 協働推進会議委員 の (名前) _____ です
- 2) (協働事業者へのメッセージ) _____
- 3) (大和市の協働事業の課題) _____

エレベータートーク実習 ～初めて会った人に1分で自己紹介できるように～

- 1) 補助金アドバイザー の (名前) _____ です
- 2) (補助金交付団体へのメッセージ) _____
- 3) (大和市の補助金制度の課題) _____

エレベータートーク実習 ～初めて会った人に1分で自己紹介できるように～

- 1) 元スタッフ の (名前) _____ です
- 2) (目的) _____ をしたいと思い、スタッフになりました
- 3) (在職中に担当したこと) _____ といったことを行いました
- 4) (やり残したこと) _____ です

大和市民活動センター 10年のあゆみ

発行日：平成27年3月 発行者：拠点やまと

大和市民活動センター
〒242-0021 大和市中央 1-5-1

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
<http://www.kyodounokyoten.com/>